

目次

はじめに	3
第1章 序論	4
1. まちづくりビジョンについて	4
(1) まちづくりビジョンとは	4
(2) まちづくりビジョンの構成	4
(3) 計画期間	4
(4) 計画のフォローアップ、見直しについて	4
(5) まちづくりビジョンの位置付け（体系図）	5
2. 策定プロセス	5
(1) ほくえい未来トークについて	5
(2) 町民アンケートについて	6
(3) まちづくりビジョン検討委員会について	6
3. SDGsについて	6
第2章 北栄町の現状と課題	9
1. 北栄町の現状と特徴的なこと	9
(1) 北栄町の概要	9
(2) 北栄町の人口	10
(3) 北栄町の産業	10
(4) 北栄町の特徴的な取り組みや地域資源	11
2. 北栄町の主な課題	15
第3章 北栄町の将来ビジョン（2030年の目指すべき将来像）	16
(1) 地域資源の更なる活用による地域経済の好循環	16
(2) 持続可能かつ快適・安全に暮らせ、地球環境に貢献するまち	16
(3) 地域の中で生涯を通してやりがい・いきがいをもちながら過ごせるまち	17
(4) 誰一人取り残さず、地域への理解を育む子育て・教育環境	17
(5) 北栄町ならではの魅力の国内外へのより深い浸透	17
第4章 施策の体系図・部門別計画	18

■▶ 第1節 地域資源で稼ぎ賑わうまちづくり（産業・観光）	19
第1項 農林業の振興	20
第2項 商工業の振興	26
第3項 観光の振興	29
■▶ 第2節 生涯学び未来を育てるまちづくり（教育・生涯学習・子育て・文化・スポーツ）	33
第1項 未来をつくる教育の推進	34
第2項 子育て支援の充実	39
第3項 文化・芸術の振興	42
第4項 スポーツの振興	44
■▶ 第3節 誰一人取り残さないまちづくり（人権、福祉、健康、男女）	46
第1項 人権教育の推進	47
第2項 福祉の充実	48
第3項 健康づくりの推進	53
第4項 男女共同参画社会の推進	55
■▶ 第4節 安全で持続可能なまちづくり（環境・インフラ・安全・生活）	57
第1項 環境にやさしいまちづくりの推進	58
第2項 インフラの整備	61
第3項 安全なまちづくりの推進	66
■▶ 第5節 人と人とのつながりを育むまちづくり（コミュニティ・町政・交流・移住定住）	68
第1項 地域活動・まちづくりへの参画推進	69
第2項 交流の推進	72
第3項 移住定住の促進	74
■▶ 第6節 健全な財政運営	76
第1項 健全な財政運営	77
第5章 資料編：町民の方々からいただいた意見や議論について	79

はじめに

平成17年に北栄町が誕生し、新たなまちづくりの歴史が始まりました。

北栄町は北に日本海を臨み、黒ぼく土の肥沃な大地や白砂青松の景色が美しい北条砂丘が広がる自然豊かな町です。農業が盛んな地域であり、様々な魅力ある特産物が生み出されていること、町直営の風力発電施設に見られるように環境にやさしいまちづくりを進めていること、漫画「名探偵コナン」の原作者である青山剛昌氏の出身地であることを活かした「名探偵コナンに会えるまち」づくりを進めていることなどをはじめとして、様々な魅力にあふれたまちです。

北栄町に住む人は令和2年8月1日現在（住民基本台帳）で14,788人となっており、長期的に減少傾向にあり、2030年には12,491人、2040年には10,769人になるとの試算（国立社会保障・人口問題研究所推計）もあります。長期的な人口減少と少子高齢化は我が国全体が抱える課題でもあり、それに伴って生じる様々な問題が指摘されています。北栄町においても、産業の担い手の減少、地域コミュニティの維持、空き家の増加・商店の減少、子どもの減少と若者の地域外流出、交通手段の確保など様々な課題が加速化していくことが懸念されています。将来にわたって北栄町を持続可能な形で残し、次世代に引き継いでいくためには、これらの課題を乗り越え、目指すべき将来像を行政だけでなく町民、事業者をはじめとした関係者の間で共有し、一体となって取り組みを進めていく必要があります。

一方、世界に目を向けると、2015年9月の国連サミットにおいて「SDGs」（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）という国際目標が決まりました。これは、貧困、戦争、大きな経済格差、ジェンダー¹格差、不衛生な環境、地球温暖化、生態系の破壊など、世界中で解決すべき課題に対して17のゴールを設定し、それを達成することで世界全体を持続可能な形で発展させていこうとする目標のことです。今般のまちづくりビジョンの策定に当たっては、SDGsの考え方を積極的に取り入れた上で、2030年に北栄町が目指すべき姿を示すこととしています。



北栄町の景色 海岸沿いに立ち並ぶ風車

¹ ジェンダー：身体の特徴など生来の性別の違いではなく、社会的、文化的につくられた性差のこと

第1章 序論

▶ 1. まちづくりビジョンについて

(1) まちづくりビジョンとは

平成17年10月に北栄町が誕生し、新たな町政運営がはじまりました。平成19年には町の最高規範として「北栄町自治基本条例」を制定し、町民、議会、行政が協働してまちづくりを進め、行政は積極的に情報共有を行い、町民、事業者、コミュニティなどあらゆる町の関係主体がまちづくりに参画していくこととしました。この自治基本条例においては、「町の将来の目指すべき姿」を町民と共有するため、行政は広く町民等の参画を得ながら「まちづくりビジョン」を策定することとしています。

このまちづくりビジョンは、すべての主体が共有する町の将来像であり、すべての主体がこのビジョンの実現に向けて歩んでいくことが望ましく、またそのように思えるものである必要があります。同時にまちづくりビジョンは町政運営の指針となる町の総合的な計画であり、10年程度の中長期にわたって北栄町が歩むべき道筋を明らかにするものです。このため、あらゆる町の政策はこのまちづくりビジョンに基づいて企画されていくものとなり、条例の制定、予算の編成、その他制度の検討などすべての施策はこのビジョンを踏まえながら実行されていきます。2011年度にまちづくりビジョンをはじめて策定しましたが、これは2011～2020年度を対象とした計画であったことから、近年の社会情勢の変化、町勢の変化も踏まえつつ、新たなまちづくりビジョンを策定することとしました。

(2) まちづくりビジョンの構成

まちづくりビジョンは大きく分けて4つの内容から構成されます。本章においては、そもそもまちづくりビジョンとは何か、どのようなプロセスで策定したかを説明しています。第2章においては、北栄町がどんな町なのか、どのようなところが魅力で、何が課題なのかを記載しています。第3章においては、「町の将来の目指すべき姿」を、第4章においては、「町の将来の目指すべき姿」を実現するために必要な具体的施策を示しています。

(3) 計画期間

まちづくりビジョンは「将来の目指すべき姿」を示すものであり、中長期的な町政運営の指針となるものであるため、一定程度の計画期間が必要です。このため、計画期間は2020年度（2020年9月）から2030年度までの10年と7か月とします。

(4) 計画のフォローアップ、見直しについて

まちづくりビジョンに示された「将来の目指すべき姿」が実現に向かっているかどうか、定期的に進捗を確認し、必要に応じて政策の見直しを行っていく必要があります。このため、まちづくりビジョンの実現のために必要な目標、施策の進捗状況に関する指標をなるべく定量的に設定するとともに、1年に一度はその

進捗を点検することとします。定量的なデータに基づき、イメージだけでなく実際にまちが抱える課題がどのような状況にあるのか、前提を共有しながら議論を行っていきます。また、まちづくりビジョンの内容については、社会情勢の変化、町勢の変化を踏まえ、必要に応じて見直しを行うこととします。

(5) まちづくりビジョンの位置付け (体系図)

北栄町自治基本条例 (協働のまちづくりの基本的なルールを定めた条例)



町の将来像を町民等と共有するため「まちづくりビジョン」を策定 (条例第 21 条)

北栄町まちづくりビジョン (10 年程度の町の歩むべき道筋)



基本的方向性を示す

個別計画 (様々な分野ごとに具体的な施策や事業を定めた計画)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ・まち・ひと・しごと創生総合戦略 | ・子ども・子育て支援事業計画 |
| ・地域防災計画 | ・文化財保存活用地域計画 |
| ・農業振興基本計画 | ・介護保険事業計画 |
| ・中小企業・小規模企業振興基本計画 | ・高齢者福祉計画 |
| ・環境基本計画 | ・人権を尊重するまちづくり推進計画 |
| ・教育振興計画 | ・男女共同参画基本計画 |
- 等

2. 策定プロセス

(1) ほくえい未来トークについて

まちづくりビジョンの策定について、自治基本条例においては「町民等の意見が反映できるよう広く町民等の参画を得て策定しなければならない」とこととされています。まちづくりビジョンは町の将来像を示すものであることから、行政だけでなく町民と一体となって策定を進めることが必要となります。このため、2019 年 9～10 月、「ほくえい未来トーク」と題したワークショップを開催し、幅広い層の町民のみなさまと町の将来像等に関して一緒に議論しました。ワークショップにおいては、各 5 名程度のグループに分かれ、「北栄町の好きなところ」、「10 年後の理想の北栄町」、「現在の町における心配事や困りごと」、「理想と現実のギャップを埋めるための対策」を議論し、この結果を新たなまちづくりビジョンの土台としていくこととしました。

町民のみなさまに参加していただくに当たっては、住民基本台帳から 1,500 人を無作為に抽出し参加をお願いするという方式を行いました。また、鳥取中央育英高校の生徒や、まちづくりビジョン検討委員 (後述) にもご参加いただきました。これにより、非常に幅広い年代、バックグラウンドを持った方々にお越しいただき、様々なご意見をいただくことができました。「ほくえい未来トーク」の内容については別途記載します。

(2) 町民アンケートについて

まちづくりビジョンの策定にあたり、幅広く意見を聞くことを目的に、住民基本台帳から1,000人を無作為に抽出しアンケートを送付しました。今後の展開に役立てるため、北栄町の施策に対する町民の満足度・重要度や期待する北栄町の将来像等を調査しました。また、町内中学校に通学している中学2年生全員を対象にアンケートを実施しています。

(3) まちづくりビジョン検討委員会について

まちづくりビジョンの策定に当たっては、行政のみならず、産業、観光、教育、文化、環境、福祉、健康など様々な分野について深い知見のある方に意見をいただいたり、それぞれの観点から必要な取り組みを指摘いただいたりすることが必要です。このことにより、実効性があり、効果のある計画の策定を行うことが可能となります。このため、「北栄町まちづくりビジョン検討委員会」を設置し、定期的を開催することで、合計20名の委員にまちづくりビジョンの検討過程において様々な意見をいただき、計画に反映しました。

▶ 3. SDGsについて

(1) SDGsとは

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）という、2016年から2030年までの国際的な目標が、2015年9月の国連サミットで採択されました。このSDGsは、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国・途上国の区別なく取り組む普遍的なものであり、我が国においても積極的に取り組んでいるものです。17のゴールは、具体的には以下の表のような内容となっていますが、これらは個々に独立しているわけではなく、統合され不可分のものであるとされています。つまり、持続可能な社会を作っていくためには、ある一つのゴールの達成のみを追求するのではなく、環境・経済・社会面の課題から構成されるすべてのゴールを統合的に達成する必要があるということです。

SDGsの達成に向けては、「あちらを立てればこちらが立たず」というように、一つのゴールの達成に向けた取り組みが他のゴールの達成を阻害する（トレードオフ²の関係にある）ような場合、そのトレードオフを可能な限り小さくしていくことに加え、あるゴールの達成のための取り組みが他のゴールの達成にも大きな効果をもたらすように、すなわちシナジー効果（相乗効果）を最大化するように取り組んでいくことが重要となります。

また、SDGsは、2030年のあるべき姿を17の目標に分けて示したものです。つまり、SDGsの達成に貢献するためには、具体的に将来のあるべき姿から逆算し、「何ができるか」だけではなく「何をすべきか」を考え、実行する「バックカスティング³」の思考が求められています。したがって、従来の取り組みの延長線上にある施策ではなく、今までの発想にとらわれない、経済・社会システムの変革を目指す取り

² トレードオフ：何かを達成するために別の何かを犠牲にしなければならない関係のこと

³ バックカスティング：未来のある時点で目標を設定しておき、そこから振り返って現在すべきことを考える方法

組みが必要になります。

「持続可能」とは、「将来世代にとって必要なことを損なわず、現役世代にとっての必要なことを満たすこと」とされています。「はじめに」で示したような北栄町の課題を踏まえつつ、今私たちは本当に「誰一人取り残さない」社会を作れているか、将来も北栄町に暮らす人々が豊かな暮らしを享受するための取り組みができているか、改めて振り返り、上記の観点を踏まえながら、今後のまちづくりに活かしていく必要があります。SDGsに取り組むということは、我々の抱えている問題そのものの解決につながることであるため、北栄町においては、新たなまちづくりビジョンの策定に当たっては、SDGsの考え方を積極的に取り入れ、後述する将来ビジョン、まちづくりの基本目標、具体的な施策などに反映させていきます。

【持続可能な世界を実現するための17のゴール】

ゴール1	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
ゴール2	飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
ゴール3	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
ゴール4	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
ゴール5	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
ゴール6	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
ゴール7	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
ゴール8	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働き甲斐のある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
ゴール9	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
ゴール10	各国内及び各国間の不平等を是正する
ゴール11	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する
ゴール12	持続可能な生産消費形態を確保する
ゴール13	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
ゴール14	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
ゴール15	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
ゴール16	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
ゴール17	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標




ロゴ：国連広報センター作成

(2) SDGsの表示について

SDGsの17の目標には、それぞれ細かいターゲットが設定されており、全部で169のターゲットがあります。

後述する「部門別計画」の「施策の目標（KPI）、関連するSDGs」には、ゴールのロゴと数字が入っています。ゴールの数字の後に英数字が入っているものは、ターゲットを記載しているものです。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
地域活動助成の実施件数	8件/年	100件/11年	17.17 

ゴール17・・・ 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

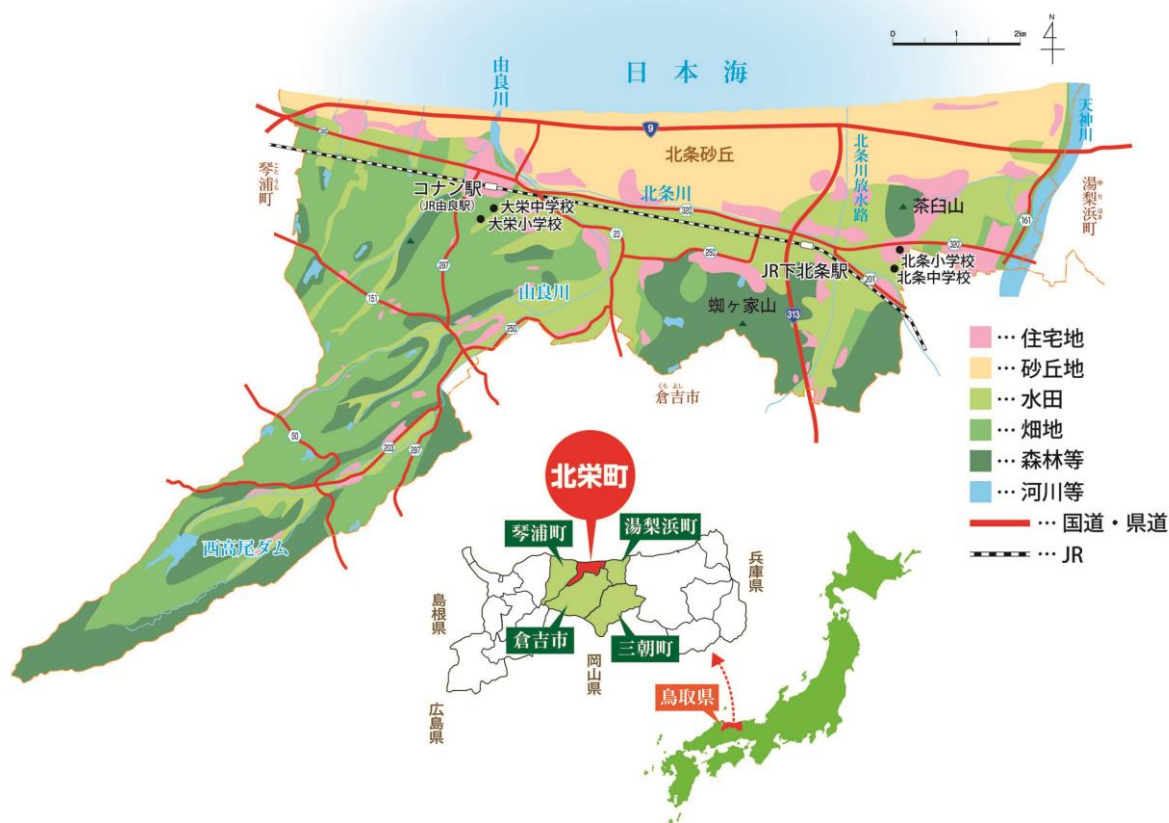
ターゲット17.17・・・ 様々なパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

第2章 北栄町の現状と課題

1. 北栄町の現状と特徴的なこと

(1) 北栄町の概要

北栄町は、平成17年10月1日に旧北条町と旧大栄町が合併してきた町で、鳥取県の中央部に位置しています。全町域の約7割は、田畑と山林が占めており、自然豊かな町です。町の中央部には二級河川の由良川、本町の東側境界には一級河川の天神川がそれぞれ南北に伸び、日本海に流れています。また、町内には由良川のほか、9つの二級河川が流れています。南部は倉吉市と接し山地丘陵や中国山地に続く高地となっており、大山の火山灰が降り積もってできた黒ぼく土の肥沃な大地が広がっています。一方で全体として標高は低く、最高位は314mとなだらかな傾斜の地形となっています。また、東部は湯梨浜町、西部は琴浦町、南部は倉吉市にそれぞれ接しています。北部は日本海に面し、東西約12.5kmに及ぶ砂丘海岸となっており、その背後には約15km²にも及ぶ北条砂丘が広がっています。東西約12.5km、南北約9.5km、面積57km²と県内で3番目に小さな自治体でありながら、このように様々な自然環境から構成されています。気候は日本海側気候であり、春と秋は好天の日が多く、夏は南風によるフェーン現象⁴で猛暑日となることもあります。平野部でも熱帯夜は少なくなっています。冬は曇りや雨、雪の日が多いですが、1月平均気温は4℃台と東京郊外、名古屋、京都と同じくらいであり冷え込みは厳しくありません。



北栄町の概要図

⁴ フェーン現象：山から乾燥した高温の風が吹きおろる現象

町の全地域の土地使用状況については、耕地 21.8 km²（田 8.8 km²、畑地 13.0 km²）、林野地 14.4 km² となっています。耕地の占める割合が 38%と高いのが特徴で、耕地率は県内で1 番目となっています。また、可住地面積（総面積から林野地域と湖沼地域を除いたもの）の割合についても県内で4 番目です。町の交通体系は、J R 山陰本線の停車駅が2 駅あるほか、県の東部と西部をつなぐ国道9 号、さらに国道313 号により岡山県とつながっていることに加え、山陰自動車道及び地域高規格道路の建設も進んでいることから、鳥取県における交通上の要衝の地ともなっています。また、道路舗装率は95.8%と県内3 位、下水道普及率は96.6%と県内1 位であることや、畑地灌漑用水施設が充実しているなど、インフラ⁵整備が進んだ地域でもあります。一方、県内一位の人口を持つ鳥取市を有する県東部エリア、米子市、境港市を有し松江市とも隣接する県西部エリアから等しく離れており、鳥取県の中でも人口の少ない県中部エリアの中央に位置しています。

(2) 北栄町の人口

北栄町の人口は令和2年8月1日現在（住民基本台帳）で14,788人（男7,128人 女7,660人）となっており、1995年の17,228人（国勢調査）をピークとして年々減少しています。年齢別人口では、65歳以下の人口は減少しているのに対し、65歳以上の人口は増加している状況です。また、世帯数については令和2年8月1日現在（住民基本台帳）で5,401世帯となっており、近年は横ばい傾向が続いています。将来の人口について、2030年には総人口が12,491人、2040年には10,769人となると推計（国立社会保障・人口問題研究所推計）されています。総人口について、年少人口（0歳～14歳）、生産年齢人口（15歳～64歳）、老年人口（65歳以上）の3区分を見ると、年少人口と生産年齢人口は、総人口の傾向と同じように減少を続けますが、老年人口は、2025年に5,000人を超え、それをピークとして微減していくと推計されています。また、年齢3区分の割合は、老年人口の増加により、2040年には、総人口に占める65歳以上人口の割合が、約4割になります。

(3) 北栄町の産業

北栄町の産業別就業人口は、平成27年時点で第一次産業1,795人、第二次産業1,664人、第三次産業4,545人です。第一次産業就業者比率が県内で4番目に高く、その大部分は農業を生業としています。農業は本町の主要産業となっていて、農業産出額は平成29年では約88億4千万円、内訳をみると野菜が5割以上を占め、ついで果実、米、花きの順となっています。地域別では、南部の黒ぼく土の丘陵地帯では大栄西瓜、秋冬野菜、花きの生産が、北条砂丘地帯ではらっきょう、ぶどう、ねばりっこ（県の園芸試験場で開発された新品種の長芋）、白ねぎ等の生産が行われており、土地の特性を活かした多様な農産物が生産されています。特産品の一つである大栄西瓜は、ここ数年単価の上昇が続いており、2019年度の総生産額は20億円を突破するとともに、同年にはGI⁶（地理的表示）登録がなされました。また、ねばりっこについても総生産額の上昇が続いており、生産者戸数も増えています。らっきょうについては鳥取県が全国一位の出荷量を誇りますが、県内2番目の一大生産地となっています。他にも砂丘地の寒暖差の激しい気候を活かしたぶどうが

⁵ インフラ：産業や社会生活の基盤となる施設

⁶ GI（ジーアイ）：地域独自の農林水産物などを農林水産省が認定し登録する

江戸時代頃から栽培されており、中四国地方最古のワイナリーも存在するなど、極めて多種多様な特産品が存在する県下でも有数の農業地帯です。高齢化等により生産者戸数の総数は減っているものの、製品によっては「稼ぐ農業」に魅力を感じた新規就農者が増えつつある状況です。



大栄西瓜



北条砂丘のぶどう畑

商工業について、本町の事業所数（人口千人当たり）は39.4で県内19市町村中12位、従業者数（人口千人当たり）は272.6で県内12位とどちらも中位よりやや下に位置しています。また、製造品出荷額（従業員一人当たり）は9位となっています。商店数（人口千人当たり）は9.38で県内11位と中位程度ですが、商業年間販売額（従業者一人当たり）は37,534千円で3位と上位に位置しています。高い技術力を誇る製造事業者や、名探偵コナンに会えるまちを訪れる観光客をターゲットとした飲食物販店舗等、様々な魅力を持つ企業が存在するものの、事業所の総数としては近接する倉吉市や琴浦町といったエリアには及びません。とりわけドラッグストア・大型スーパーマーケット等の大型日用品店は他市町に比べあまり存在せず、飲食店の総数も周辺市町に比べると少ないため、「日用品等を買物できる場所がない」、「飲食できるお店が少ない」との声が町民から多く聞かれます。また、宿泊施設等が少なく観光客の滞在時間も短い傾向にあります。

(4) 北栄町の特徴的な取り組みや地域資源

①北条砂丘風力発電所をはじめとした地域エネルギー

北栄町は地球温暖化対策及び地域エネルギーの活用の観点から、町直営の風力発電施設である「北条砂丘風力発電所」を管理運営しており、その規模は1,500kW×9基、合計13.5MWと自治体が運営するものとしては全国最大級を誇ります。平成25年度から固定価格買取制度（FIT）を活用し年間4.6億円程度の売電収入を得ており、売電収入の一部を活用した「風のまちづくり事業」において、町内の公共施設への省エネ設備導入、街路灯などのLED化といった公共部門の省エネ化にとどまらず、町民や事業者が行う再エネ設備導入や省エネリフォーム等への補助事業も行っており、FITで得た収入を再エネ・省エネ設備等に再投資するという好循環を形成しています。また、太陽光発電についても公共施設等への設置を進める他、地域の事業者と連携したメガソーラー発電所の設置を行い、バイオマスについてもバイオマス産業都市構想が2018年に関係府省から認定されるなど、様々な地域エネルギーの活用を進めています。これらの政策を一層進め、地球温暖化対策に貢献するべく、2019年12月には「気候非常事態宣言」及び

「ゼロカーボン宣言」を表明し、2050年までのCO₂実質排出ゼロを目指すこととしました。



北条砂丘風力発電所



農業用施設と太陽光発電が立ち並ぶ

②名探偵コナンに会えるまち

日本を代表する漫画「名探偵コナン」の作者である青山剛昌氏が本町の出身であることから、北栄町は「名探偵コナンに会えるまち」づくりを推進してきました。JR由良駅（愛称：コナン駅）から青山剛昌ふるさと館までの1.4kmのコナン通りを中心とした周辺にはキャラクターのブロンズ像やカラーオブジェ、石製モニュメントなどを配置し修景整備を進めてきました。まちづくりの中心施設である青山剛昌ふるさと館は、町が運営し、名探偵コナン関連のショップから構成される「コナンの家 米花商店街」を商工会が運営を行っており、町、観光協会、商工会、地域の住民団体が一体となって町づくりを進めています。また、青山剛昌ふるさと館をはじめコナン通りでは、掲示物の多言語表示（日本語、英語、中国語、韓国語）を実施しています。青山剛昌ふるさと館は、2018年夏に累計来場者数100万人を達成し、2019年度には年間来場者数が20万人を突破するなど、県内でも有数の観光エリアとなっています。名探偵コナンに会えるまちづくりは観光面だけでなく、移住者向けのガイドブックや児童用の学習教材等で使用されるなど、町民にとって身近な取り組みの中で活用される他、滋賀県湖南市との友好協定締結、米国の人気司会者であるコナン・オブライエン氏の来町のきっかけとなる等、外部との交流という分野においても大きな可能性を持っています。



青山剛昌ふるさと館 2007年3月オープン



米国人気司会者 コナン・オブライエンさん（コナン駅前）

③国史跡である由良台場などの歴史・文化、自然環境とその恵み

北栄町には、国史跡である由良台場跡⁷、六尾反射炉跡⁸などの幕末を象徴する近代化遺産や、国の重要文化財2体を有する東高尾観音寺をはじめとして様々な歴史・文化遺産が存在します。また、近代洋画界に足跡を残す前田寛治⁹、鳥取民藝に欠かせない役割を果たした陶芸の生田和孝¹⁰、北條土人形の加藤廉兵衛¹¹などを輩出した風土があり、長年にわたり町単独で美術展を開催したり、50年の長きにわたり北栄文芸を発行したりしています。近年は「文化の薫るまち 北栄町」として北栄文化回廊¹²を毎年実施するなど芸術・文化活動も活発です。お台場でつながる東京都港区との交流を深めており、地域の歴史・文化資源を活用することで次世代に引き継ぎ、保存していく取り組みも始まっています。

さらに、地理的特徴の項目でも述べたとおり、山林、田畑、砂丘地、河川、海など様々な自然環境が入り混じった地域であり、自然環境豊かでありつつ、平野部が多いことから居住性の高い区域です。この豊かな自然環境は産業構造の項目でも述べたとおり、歴史も豊かな北条砂丘とくろぼく土を中心に地域資源の一つである農産物を生み出す土台となっています。



国史跡由良台場跡 1864（文久4）年築造



「花」

洋画家 前田 寛治 氏

④こども園から小中高まで、教育環境の充実したまち

北栄町の教育機関として、小中学校が北条地区・大栄地区にそれぞれ1校ずつ、町が運営するこども園が4園、民間のこども園等が2園存在しています。また、鳥取中央育英高校、中央高等学園専修学校の2校が存在しており、小規模自治体でありながら町内に充実した教育環境が整っているといえます。鳥取中央育英高校とは2014年に「地域探究の時間」推進に関する協約を結び、地域をフィールドとした課題発見型の教育を推進しています。

さらに、子どもの居場所づくりとして、地域のボランティアが関わるこども北栄塾やほくほくプラザ事業、スポーツジュニアクラブなども積極的に進めており、特に不登校になった子どもたちの学校復帰支援

7 国史跡由良台場跡：1864（文久4）年、鳥取藩で最初に築造された砲台場。日本で唯一当時の原型をほぼ完全に保っている

8 六尾反射炉跡：1857（安政4）年に建設。反射炉とは金属を溶かし大砲などを铸造するための溶解炉

9 前田寛治（まえたかんじ）：洋画家。1896（明治29）年、北栄町国坂で生まれた。近代洋画界に大きな足跡を残した

10 生田和孝（いくたかずたか）：陶芸家。1927（昭和2）年、旧北条町で生まれた。鳥取を代表する陶芸家たちを育てた

11 加藤廉兵衛（かとうれんべい）：北條土人形の作家。1995（大正4）年、旧北条町で生まれた

12 北栄文化回廊：町内で一斉に芸術と文化に関する企画や展示を実施し、周遊して楽しむことができるイベント

や居場所づくりとして、民間の教育機関によるフリースクールが開設されています。町と民間教育機関との連携により生活困窮世帯やひとり親世帯の小中学生の学習支援も実施しており、子どもたちを誰一人取り残さないよう教育機会の確保を図っています。

また、絵本の持つ創造力や情操を育み、親子をつなぐ力を生かす「今こそ絵本を！」事業を進めたり、住民の主体的な学習支援のために、地域に講師を派遣する生涯学習出前講座を提供したりするなど、生涯を通じた学習機会の確保を図っています。



地元特産品が登場するサプライズ給食



鳥取中央育英高校 高校生議会で町に提案

⑤県下で最も低い要介護認定率、健康・福祉のまち

北栄町では、病気のあるなしにかかわらず誰もがそれぞれの生きがいを持ち、自分らしく安心して楽しく暮らすことができる生活を目指して、「運動習慣の定着」、「健全な食生活の定着」、「心の健康づくり」、「健康診査の充実」、「生活習慣病の予防」を進めています。特徴的な取り組みとして、一般財団法人北栄スポーツクラブと連携した運動教室の企画、食生活改善推進員の活動推進、相談できるゲートキーパー¹³の養成、国民健康保険被保険者以外の住民への人間ドック受診助成対象の拡大、ヘルスアップ教室などでの糖尿病性腎症重症化予防事業の実施などを行っています。また、北栄町の高齢化率は33%を超え、3人に1人は65歳以上となり、年々高齢化が進んでいる状況です。それにも関わらず、要介護認定率は、ここ数年15%以下で推移しており、県下で最も低い認定率となっているのは、体力づくりや健康づくり、介護予防の取り組みによる成果だと考えられます。

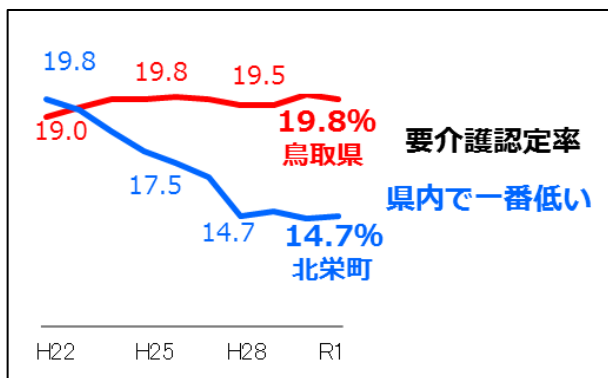
高齢化等によって生じた地域の生活環境の課題に対応するため、2020年3月に「北栄町地域福祉推進計画」を策定しました。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域共生社会¹⁴を推進しています。

¹³ ゲートキーパー：悩んでいる人のサインに気づき、専門家につないで自殺を防ぐ住民ボランティア

¹⁴ 地域共生社会：地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会



認知症捜索訓練



要介護認定率

2. 北栄町の主な課題

「ほくえい未来トーク」において「北栄町の課題」を議論する中で、多くの方々から、産業・コミュニティにおける担い手不足に伴って生じる様々な問題点を懸念する声がありました。同様に、若者世代の地域外流出、交通に関する将来への不安、商店・飲食店の少なさ、医療機関などへのアクセスの不便さに関する意見や、子育てに関する環境の充実化、観光地としての魅力向上に関する意見も多くみられました（なお、そのほかの意見も含め、詳細は第5章にまとめています）。

上述の人口動態のとおり、他の多くの自治体同様、北栄町においても人口減少・少子高齢化が今後も進行することが予測されます。この問題は、産業、地域コミュニティ、文化等における担い手の不足、それに伴う活力の低下、まちの空洞化、特に高齢者にとっての交通手段の不足、子育て・教育環境の老朽化など、経済・社会の様々な側面に大きな影響を与えかねないものです。町の財政状況についても、過去に整備した公共施設・インフラの更新費用や、医療・介護・福祉にかかる費用については今後も増加していくことが見込まれるため、一人当たりの負担額は増加していきます。

しかしながら、日本全体の人口が減少傾向に向かう中、北栄町だけが人口を増やすことは現実的ではありません。そのため、移住・定住施策により可能な限り北栄町の人口を維持していくことは必要ですが、それだけでなく、人口減少時代に対応した持続可能なまちづくりを進めていくことが重要となります。最も重要な点は、人口が減る中においても、暮らしている人々の暮らしの質を下げず、やりがい・いきがいを持って安全かつ快適に過ごし続けられる環境を維持し続けることであると考えられます。

一方、様々な人が働き続けることのできるまちであるためにも、地域内の産業基盤を維持していくことが必要です。特に、地域資源などを活用した北栄町ならではの産業を持続させていく必要があります。都市圏に比べて地域内の産業基盤が小規模になりがちな本町においては、多くの商品・サービスの供給を外部に依存しています。その結果として地域内の「お金」の多くが、商品・サービスの購入を通じて地域外に流出することとなっています。この流れを完全に食い止めることは現実的ではありませんが、地域の中で供給することが可能な商品・サービスについては可能な限り地域内で購入していくことで、資金の流れを地域の中に留め、地域経済を少しでも活性化していくことが可能になります。もちろん、地域で作った商品・サービスを他地域に売っていわゆる「外貨を稼ぐ」ことも同様に重要となります。

第3章 北栄町の将来ビジョン（2030年の目指すべき将来像）

北栄町が目指すべき将来像（将来こうなっていたらよい、という状態）について、過去のまちづくりビジョンで示した「人と自然が共生し 確かな豊かさを実感するまち」を引き続き掲げつつ、これまでの内容や第5章に示している議論を踏まえ、その具体的な内容を以下のように示します。ここで示した将来像は、行政だけで実現することは難しく、町民、地域コミュニティ、企業、その他関係者が一体となって共有し、実現に向けて取り組んでいくべきものです。

（1）地域資源の更なる活用による地域経済の好循環

北栄町に暮らす、もしくは北栄町で働くすべての人々が、自らやりがいをもって働くことのできる環境にあります。農業については、農業法人や新規就農者の参入、農業の承継等により就農者数が一定程度維持され、また耕作放棄地も減少するとともに、引き続き多様で魅力ある農産物が産出され、地域の稼ぎにつながっています。商工業についても、人口減少に伴う労働力不足が補われているとともに、その地域・事業者ならではの魅力ある商品、技術を活かした製品、独自のサービス等が提供されており、地域に根差した事業活動が活性化しています。それぞれの担い手が誇りをもって仕事に従事しており、このため町内でのサービス・商品の購入量が増えており、町内消費が増えた結果として地域経済の活性化が生まれ、地域で働く人のやりがいにもつながっています。とりわけ食料・住環境・地域エネルギーの分野においては生活を豊かにするのみならず、気候変動対策にも資する、プラスチックごみの削減にも貢献するなど地球環境に優しい選択肢が示されており、それらが主に地域内から供給されています。

（2）持続可能かつ快適・安全に暮らせ、地球環境に貢献するまち

将来の人口減少がある程度避けられない中でも、今後の財政、インフラ・公共サービスに関する問題点が解消され、町民の不安が取り除かれており、このことを実現するための長期計画が様々な主体との意見交換によってでき上がっています。暮らしの質を下げず、人口の減少に伴って公共サービスの総量は適正化されており、長期的な視野に立っても北栄町が住みよいまちになっています。これに加え、自然エネルギーの活用や断熱性能に優れた住宅制度の普及により、地球環境にとっても「持続可能」であるまちが実現しつつあり、気候非常事態宣言において示した「2050年までのCO₂実質排出ゼロ」の実現についても順調に取り組みが進められています。

生活に必要な商店、飲食店、教育施設、医療・介護施設、公共施設等に誰もが容易にアクセスできる仕組みが確保されています。徒歩、公共交通、自転車など自家用車以外の選択肢を取ったとしても不自由なく暮らせ、様々な目的地を訪れることができるようになりつつあり、地域に賑わいが生まれています。土地利用についても、住宅地、企業用地、農地・山間地などの明確化がある程度なされ、誘導的な施策の効果が出つつあり、まちの空洞化の解消に向かって一定のめどが立っています。大前提として、生活を維持するのに必要な道路、インフラ、公衆衛生は人々が暮らす場所にきちんと整備されており、その質も維持あるいは向上しています。また、近年増加、激甚化する大雨や台風への対応、鳥取県中部地震を踏まえた地震への備えなど、防災を意識したインフラの整備が進んでおり、安全で安心な暮らしが守られています。

(3) 地域の中で生涯を通してやりがい・いきがいをもちながら過ごせるまち

自治会や文化活動など様々な地域のコミュニティが充実しており、地域の中でそれぞれの人が活躍でき、互いに助け合い、支えあっている状態であり、結果として地域における見守り体制や災害に対する地域ごとの備えが整っています。すべての人が自らの権利を余すことなく行使できており、そのためのあらゆる障害が排除され、社会福祉の充実も図られていることで、すべての人が生き活きと過ごすことができます。生涯を通して仕事だけでなく社会貢献、文化活動等の様々な活動に取り組むことができ、そのために必要な心身の健康の増進にも積極的に町民が取り組んでいるとともに、そのためのサポート体制・情報提供体制、高齢者福祉の環境がしっかりと整っています。自らの住む地域、町に誇りを持っており、自分たちの住む地域や町は自らで創り出すとの考えの下、町政の方針についても積極的な議論が各所でなされ、行政への住民参加も多く、その機会も行政から広く提供されています。

(4) 誰一人取り残さず、地域への理解を育む子育て・教育環境

それぞれの子どもが生まれ育った環境に関わらず、「誰一人取り残さない」充実した教育環境の提供がなされています。更に、子どもや若者が豊かな自然環境、歴史・文化に囲まれつつ、十分な学習とトレーニングの機会を得られ、地域や社会のことを学ぶ機会、文化・スポーツなどに親しむ機会を持つことができます。これらに加えて子育てのためのサポートが充実しており、子育て世代が安心して子育てを町で行うことができます。また、子どもたちが地域とのつながりを持てる機会も増え、結果として町に魅力を感じ、将来の居住の選択肢のひとつとして北栄町が入るような環境となっています。

(5) 北栄町ならではの魅力の国内外へのより深い浸透

豊かな自然環境やそこから生み出される農産物、名探偵コナンに会えるまちづくりを含めた観光、歴史・文化資産、風力発電施設をシンボルとした環境への取り組み、それらを担う人々など、北栄町の様々な魅力が発展・強化され、町民が暮らしの中で実感できているとともに、自らの町に誇りを持てるきっかけとなっています。町にとっては当たり前に見えるものでも、農業、観光、環境、教育に見られるように世間一般においてもトップランナーとして他の地域、あるいは他の国々の課題解決の模範になっているようなものも多くみられています。観光客、だけでなく、定期的に訪れたり、北栄町における活動に主体的に参加したりするなど、多様な形で北栄町のファン、北栄町に関わる人々が増えています。また、個人レベルにとどまらず、国内外の企業や自治体など外部との交流が様々な形で生まれています。町の多様な魅力が外部に伝わっていくことで、結果として町民だけではなく多様な人が町に関わっており、その中から移住・定住する人も増えている状態となっており、北栄町人口ビジョンの達成にもつながりつつあります。

第4章 施策の体系図・部門別計画

北栄町の将来ビジョンを実現するために行う具体的な施策について、以下のとおり体系図を示すとともに、詳細について第1節以降に示します。

将来ビジョン（2030年の目指すべき将来像）

人と自然が共生し 確かな豊かさを実感するまち

①地域資源の更なる活用による地域経済の好循環	②持続可能かつ快適・安全に暮らせ、地球環境に貢献するまち	③地域の中で生涯を通してやりがい・いきがいをもちながら過ごせるまち	④誰一人取り残さず、地域への理解を育む子育て・教育環境	⑤北栄町ならではの魅力の国内外へのより深い浸透
------------------------	------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------	-------------------------

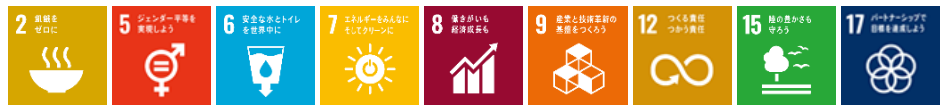
今後10年間のまちづくり

部門別計画	基本施策	具体的施策
第1節 地域資源で 稼ぎ賑わう まちづくり (産業・観光)	第1項 農林業の振興	1. 農業の多面的価値を活かすまちづくり 2. 健全な森林をつくる
	第2項 商工業の振興	1. 商工業の振興
	第3項 観光の振興	1. 観光資源の活用 2. 広域観光の促進 3. 道の駅の再整備
第2節 生涯学び 未来を育てる まちづくり (教育・生涯学習・子育て・文化・スポーツ)	第1項 未来を作る教育の推進	1. 教育環境の充実 2. 地域を支える人材の育成 3. 生涯学習活動の推進
	第2項 子育て支援の充実	1. 結婚、出産、子育てに安心、喜びを感じられる環境づくり 2. 子育てと仕事の両立支援
	第3項 文化・芸術の振興	1. 文化活動及び文化財の保存・活用の推進
	第4項 スポーツの振興	1. スポーツの振興
第3節 誰一人取り残さない まちづくり (人権・福祉・健康・男女)	第1項 人権教育の推進	1. 人権教育の推進
	第2項 福祉の充実	1. 地域福祉の充実 2. 高齢者福祉の充実 3. 障がい者福祉の充実
	第3項 健康づくりの推進	1. 健康づくり活動の推進
	第4項 男女共同参画社会の推進	1. 男女共同参画社会の環境整備
第4節 安全で持続可能 なまちづくり (環境・インフラ・安全・生活)	第1項 環境にやさしいまちづくりの推進	1. 再生可能エネルギー等の活用によるまちづくりの推進 2. 環境にやさしいライフスタイルへの転換 3. ごみの減量化と適正処理の推進
	第2項 インフラの整備	1. 交通基盤の整備・維持管理 2. 上水道の整備・維持管理 3. 下水道の整備・維持管理 4. 公共施設・住環境の整備・維持管理 5. 情報化の推進
	第3項 安全なまちづくりの推進	1. 地域防災・危機管理対策の充実 2. 生活安全の対策の充実
第5節 人と人との つながり を育むまちづくり (コミュニティ・町政・交流・移住定住)	第1項 地域活動・まちづくりへの参画推進	1. 協働活動の推進 2. 開かれた町政運営
	第2項 交流の推進	1. 交流の推進
	第3項 移住定住の促進	1. 北栄暮らしの支援
第6節 健全な財政運営	第1項 健全な財政運営	1. 行財政改革の推進 2. 歳入確保に向けた取り組み

▶ 第1節 地域資源で稼げ賑わうまちづくり (産業・観光)

北栄町で働く人、北栄町で暮らす人、またはそれらに関心のある人が自らのやる気や能力を発揮でき、新たなチャレンジを行いやすい環境を整備するとともに、北栄町の魅力ある農業・商工業をはじめとした産業を維持し・発展させ、新たな産業を創出していくための取り組みを応援します。地域のニーズを捉え、しっかりと稼げるまちづくりのための土台作りを関係者と一体となって進めます。

「名探偵コナンに会えるまち」をはじめとして、豊かな自然環境・農産物・文化等も活かした観光施策を一層推進し、地域内での経済活動の活性化を図るとともに、北栄町自身の持つ魅力を向上させ、町内外に発信していくことで、北栄町を訪れ、楽しみながら過ごしてくれる人を増やし、町の内外を問わず「北栄町のファン」の増加につなげていきます。



大栄西瓜の販売促進活動



農産物を楽しめる観光農園



子どもの農業体験



青山剛昌ふるさと館

第1項 農林業の振興

1. 農業の多面的価値を活かすまちづくり

【現状と課題・施策の基本的方向】

北栄町の農業は、水田、砂丘畑、黒ぼく畑、樹園地に概ね区分されており、水田では多くの地域で集落営農が営まれています。砂丘畑では、長芋、ぶどう、らっきょう、白ネギ、洋芝等が栽培され、黒ぼく畑では、スイカをはじめ多品目にわたる野菜、花き等が栽培されています。山間部の樹園地では、梨、柿が栽培されています。

北栄町では、生産者（一丸となって高品質農産物づくりに特化）と、JA系統組織（集荷・選果能力を高め、市場での有利販売につなげていく）が互いに連携する形態が、地域に根付いています。この形態が有効に機能した結果、「大栄西瓜」などブランド化に成功しています。

農業・農村において、農業協同組合の組織や小規模農家、そして家族経営が担ってきた役割は大きく、地域における相互扶助などの人と人のあり方、地域の農業振興への取り組みなど重要な役割を担っています。今後も農協を農家の利益を守る組織として機能してもらうためにも連携を求めて、常に緊張感をもって対応していく必要があります。

販売額 20 億円を誇る「大栄西瓜」も、ここ数年は戸数、作付面積等をみると、緩やかに減少の推移を示しています。主力の担い手が 50 代後半となり、次第に重量のある大栄西瓜の収穫（運搬）作業や同じ姿勢での作業が苦痛になったり、高騰する資材や効率化するために導入した機械などの支払いによって、収支のバランスを失するなどの理由から、生産基盤を維持できず離農したり規模を縮小する農家が出始めました。

【施策の内容】

（1）担い手の確保

- ・新規就農・集落営農・地域の担い手などの育成強化に取り組みます。
- ・新規就農については、親元就農促進支援交付金または農業次世代人材投資資金及び就農条件整備事業などを活用し、就農初期のリスク回避及び安定した農業経営の軌道にのるまでのサポートを行います。
- ・新規就農者の状況に合わせたサポートを行うため、県農林局・普及所・農業大学校・担い手機構など関係機関と十分に連携し、綿密に面談などを行います。
- ・¹⁵ ㈱北栄ドリーム農場が「就農のプラットフォーム¹⁶」となり、ドリーム農場で働く地域おこし協力隊が任期終了後も引き続いて北栄町で農家として根付くことができるよう働きかけます。
- ・北栄町農業のもっている魅力を町民に発信し、北栄町農業に興味をもつ人を増やします。

（2）生産者の主体的なやる気を応援、新たな園芸生産の拡大

- ・飼料用米、麦、大豆など需要のある作物の生産を振興し、意欲ある農業者が自らの経営判断で作物を選

¹⁵ ㈱北栄ドリーム農場：イチコの産地化のため、北栄町と鳥取中央農協が共同出資して設立した農業法人

¹⁶ プラットフォーム：動かすために必要な、土台となる環境や基盤

択する状況を実現するために取り組みます。

- ・ 農業者の感性豊かなアイデアの実現、需要にこたえる園芸作物の生産体制の強化に取り組みます。
- ・ 経営規模の拡大や複合経営の推進などにより、経営基盤の強化を図ります。
- ・ 高単収、高品質栽培技術の導入を加速させ、大栄西瓜をはじめとしたトップブランド産地の形成を進めます。
- ・ 畜産・酪農の収益力強化にむけて取り組みます。

(3) 農地集積・集約の加速化

- ・ 農地の円滑かつスピーディーな集積を図るため、農地中間管理機構の一層の機能強化とあわせて、JA鳥取中央、北栄町、農業委員会等との密接な連携を進めます。
- ・ 農家の話し合いに基づき、地域農業において中心的な役割果たすことが見込まれる農業者に当該地域における農業の将来のあり方などを明確化します。

(4) 輸出環境整備、販路拡大に向けた取り組み

- ・ GAP¹⁷、HACCP¹⁸、ハラール¹⁹、G I等の品質・安全性基準の認証について、国際的な基準との整合性を図りつつ、関係機関と連携して取得を促進します。
- ・ 高付加価値化が可能な有望品目（大栄西瓜、ねばりっこなど）を選定したうえで、戦略的・重点的なプロモーションの継続的实施、集出荷施設等への支援、市場開拓等へ取り組みます。
- ・ 農業と他分野との連携を促進し、経済界と農業界との連携・融合を進め、加工、物流、販売等において経済界のノウハウを有効活用し、生産性の向上につなげます。



大栄西瓜 GI登録



ぶどうの販売促進活動

(5) 子どもや消費者等との交流

- ・ 農業体験、食育体験の場の提供などにより、自然との共同の営み、いのちに対する思い、農と食への理解を深めていきます。

(6) 農地、農業用水等の適切な資源管理

- ・ 畑作に必要な農業用水を確保するための西高尾ダムやパイプラインの整備、営農条件を改善するための水田、畑の整備、農作物などを運搬するための農業用道路の整備、農村の環境整備を行います。

¹⁷ GAP（ギャップ）：「品質」「安全性」「環境への配慮」などの一定基準を満たした農作物に認められる規格

¹⁸ HACCP（ハサップ）：食品の製造工程における品質管理システムのこと

¹⁹ ハラール：アラビア語で「許された」などの意味を持ち、イスラム法で許されている食べ物を指す

- ・農業水利施設や農道の整備等、地域の要望に沿ったきめ細かな基盤整備を推進します。
- ・農業農村の持つ、洪水や土砂崩れの防止、自然環境の保全、美しい風景などの様々な働き（多面的機能）が適切に発揮されるよう、地域の共同活動を支援します。

(7) 農村エネルギー・環境政策への取り組み

- ・農山漁村に豊富に存在する太陽光、風力、地熱、バイオマス、小水力といった未利用の資源を活用した再生可能エネルギー²⁰の推進について、関係機関などと連携して取り組みます。

(8) 先端技術の研究・開発の推進

- ・先端技術の積極的な活用、ドローンやIoT²¹などを活用したスマート農業について、関係者、関係機関と連携しながら導入を検討していきます。

(9) 有害鳥獣被害対策の推進

- ・電気柵やネット柵による防御対策のほか、環境整備（生息地管理・追い払い）を、地域で主体的に行い、捕獲などを軸とした実効性の高い鳥獣被害対策に取り組みます。
- ・農家等が主体的に有害鳥獣の捕獲にかかわることができるよう、狩猟免許の取得を推進するため狩猟免許の取得のための費用を助成します。
- ・鳥獣被害対策の正しい知識や技術の習得と捕獲の担い手を確保するため、狩猟経験のない者又は経験の浅い者を中心に講習会を開催します。
- ・地域資源であるイノシシ等のジビエ²²利用を推進します。
- ・有害鳥獣の捕獲、被害の調査に関する活動、鳥獣の棲家となる竹林の整備などの活動を行う地域おこし協力隊を配置します。

【施策の目標（KPI²³）、関連するSDGs】


項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
新規就農者相談数	述べ50件	述べ60件	2, 8 
園芸産地活力増進事業実施件数	4件	5件	2, 8 
がんばる農家プラン事業実施者数	5件	6件	2, 8 

²⁰ 再生可能エネルギー：自然の活動によってエネルギー源が絶えず再生され、半永久的に供給され、継続して利用できるエネルギー

²¹ IoT（アイオーティー）：あらゆる物がインターネットを通じてつながることによって実現する新たなサービス、ビジネスモデル、またはそれを可能とする要素技術の総称

²² ジビエ：狩猟によって食材として捕獲される野生鳥獣やその肉

²³ KPI（ケーピーアイ）：一定の目標達成に向かってそのプロセスが順調に進んでいるかどうかを点検するための、もっとも重要な指標

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
有害鳥獣侵入防止柵設置事業取り組み地区数	—	2 地区	2 

【みんなで取り組むこと】

- ・一人ひとりが「北栄町は農業の町」であることを再認識し、様々な場面で積極的に農業に係わりを持ちましょう。
- ・北栄町の農産物の美味しさをみんなで宣伝しましょう。
- ・地域の農業や環境を維持発展させていくために、将来の地域のあり方について、豊かな地域づくりをどのように進めるか、地域全体で考え、話し合しましょう。
- ・里山や森林の適切な管理により、有害鳥獣の繁殖を防ぎ、農作物被害の軽減を図りましょう。



北栄ドリーム農場



子どもの農業体験



2. 健全な森林をつくる

【現状と課題・施策の基本的方向】

世界的な景気の減速の影響により、新設住宅着工数の低迷や木材需要量が減少し、長期にわたり下落していた木材価格がさらに低下するなど、林業・木材産業を取り巻く現状は一層厳しさを増しており、必要な森林整備が進まない状況にあります。一方で、木材はコンクリートや鋼材に比べ製造過程における二酸化炭素排出量が少なく、その美しさや温かみから他の建材にはない魅力を持っています。また、適切に管理された森林は地球温暖化対策、生物多様性の保全に貢献し、豊かな森・里・川・海のつながりをつくるものとなります。このため、本町においても、地域の木材の利用を促進し、適切に森林を管理していくことで、地域経済の活性化、さらには循環型社会の構築を図ります。

【施策の内容】

(1) 森林整備の推進

- ・北栄町森林整備計画を効果的に進めるため必要な財源を確保します。
- ・森林クラウド（市町村、県、森林組合で森林情報を共有するネットワーク）を構築し、効率的な森林施業を支援します。
- ・里山の保全機能などを有する竹林は、その整備に多額の費用がかかることから放置され、人工林への侵入や竹藪化に伴う生活環境の悪化や景観破壊といった問題が生じていることから、竹林整備及び竹のパウダー等有効活用のための総合的な支援を行います。

(2) 木材利用の推進

- ・公共建築物木材利用促進法の施行に伴い、公共建築物等における木材利用を拡大するとともに、住宅利用に加えて、木の特性を活かした木材利用の多様化を進め、民間需要の拡大にむけて取り組みます。
- ・森林・林業の役割や木材の利用意義等について、木に触れ、木を知る木育を通じて、次代を担う子どもたちを中心として町民に幅広くPRします。

(3) 持続的森林経営の育成

- ・農業剪定枝や林地残材の新たな木材利用を検討します。
- ・経営管理が行われていない森林について、町が森林所有者の委託を受けて経営管理し、意欲と能力のある林業経営者に再委託することにより、林業経営の効率化と森林管理の適正化を推進します。
- ・林業労働者の生活の安定と福祉の向上に寄与するため、林業労働者共済掛金及び林業労働者年末一時金の支給助成を行い、人材の確保及び就労条件の改善を図ります。

(4) 森林病虫害被害対策の推進

- ・松くい虫被害の拡大防止を図る観点から、松くい虫被害を受けない抵抗性クロマツの植栽を推進し、薬剤の空中散布による健康被害の防止や農産物への影響などへの対策を行うなど総合的な松くい虫対策を推進します。
- ・海岸部における民有保安林について、駆除・防除に対し県と連携して取り組みます。
- ・急速に広がりつつあるナラ枯れについて、その被害拡大を防止するための効率的な駆除対策を県と連携して取り組みます。



山林



松くい虫防除空中散布

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
森林経営管理面積	—	50ha	15 
今後の抵抗性クロマツ植栽本数	—	5,000本	15 

【みんなで取り組むこと】

- ・みんなで森林資源を積極的に活用することにより、森林環境を保全しましょう。
- ・松くい虫被害の拡大を防ぎ、健全な松林を保持しましょう。

第2項 商工業の振興

1. 商工業の振興

【現状と課題・施策の基本的方向】

日本経済は、国の日本再興戦略の取り組みもあり、デフレ²⁴構造及び極端な円高が是正されようとしています。わが国が持続的な経済成長を実現するためには、人口減少・高齢化、財政再建という長期的な課題への対応が必要不可欠な状況となっています。

このような情勢の中で、本町においても地域経済を支える中小企業を取り巻く環境は、若年層の定着率の減少・少子高齢化の進行による生産年齢人口の減少、経済活動の広域化・グローバル化により厳しい状況となっています。

本町における商工業が今後も安定した発展を続け、豊かな町民生活を営むことができる環境を維持するためには、ICT²⁵技術を活用した生産性の向上や在宅勤務、SOHO²⁶など職場にとらわれない新たな働き方など、時代の変化に的確に対応した取り組みが求められています。

また、町内の消費動向は、県東西部に大規模ショッピングセンターの立地や近隣市町へドラッグストア等の出店、ネット販売・TV通販の進展による影響のほか、消費税増税による買い控え等により既存商店も厳しい状況に置かれていることから、今後さらに進行する少子高齢化を見据え、事業者・町民・町が地域経済発展のためにそれぞれの役割を明確化して、地域内で生活に必要なものを手に入れることができる地域循環型の環境づくりを進めていく必要があります。



町内の商工業事業所



町内企業を紹介「企業ガイドブック」

【施策の内容】

本町の事業所の大多数を占める中小企業は、地域の経済、雇用をはじめ町民の暮らしを支えており、地域を守る人材の確保や災害に強く安心して豊かに暮らせる社会の実現に大きな役割を担っています。地域を構成する事業者・町民・町・支援団体等が互いの役割を明確にし、町全体で中小企業の振興に取り組んでいくことを定めた「北栄町中小企業・小規模企業振興基本条例」に基づき、次の施策を展開します。

²⁴ デフレ：物価が下がり続け、経済活動が縮んでいく現象

²⁵ ICT（アイシーティー）：情報通信技術

²⁶ SOHO（ソーホー）：パソコンやインターネットを駆使して個人や中小企業がビジネスを展開する自宅や小規模の事業所のこと

(1) 町内事業所の経営安定及び革新に関する施策

- ・経営安定・経営革新に取り組む事業者に対し、支援制度を受けるための前提となる計画承認を行うほか、必要に応じたフォローアップを行います。

(2) 町内事業所の経営基盤整備に関する施策

- ・経営基盤の整備や事業再建などの相談に広く応じることができる相談機関の周知を行います。

(3) 町内事業所の受注機会拡大・市場開拓に関する施策

- ・地域の事業者配慮した発注や市場開拓に向け、地域内循環の拡大に取り組みます。
- ・インバウンド²⁷への取り組みにより町内消費を高めます。

(4) 人材育成・確保及び雇用の促進・安定に関する施策

- ・教育機関と連携し、児童・生徒への適正な職業観・勤労観を醸成することで、幼いころから地域の職場を身近に感じる機会を増やすことに努めます。
- ・雇用の確保に向け、企業が求める人材と働きたい職場のマッチングが円滑に進むよう就職支援の充実を図ります。
- ・IJUターン²⁸促進の取り組みにより、都市部からの人材確保を図ります。

(5) 働きやすい職場づくりに関する施策

- ・働きやすい労働環境や働きがいのある職場環境を目指した啓発活動に取り組み、仕事と生活の調和がとれた労働環境の構築に取り組みます。

(6) 事業承継の促進に関する施策

- ・円滑な事業承継により、地域資源と技術を次代に伝承していけるよう、事業承継の有効な制度及び相談窓口の周知に努めます。

(7) 新事業の創出及び起業支援に関する施策

- ・本町独自の創業支援制度を取り組みの軸として、事業者の創業を支援し、地域経済の活性化及び雇用の創出実現に取り組みます。

(8) 資金調達の円滑化に関する施策

- ・事業者の資金調達を支える金融機関と連携し、事業者に対して有効な各種融資制度の周知に努めるとともに、状況に応じた円滑な融資が受けられる環境整備に努めます。

(9) 中小企業・小規模事業者に対する支援・連携ネットワークの構築

- ・本町全体で商工振興を進めていくために、商工会をはじめとした関係団体の活動を支援し、支援ネットワークの強化を図ります。

(10) 中小企業・小規模事業者に関する情報の収集及び提供

- ・企業訪問により、事業者のニーズを把握するとともに支援制度の周知に努めます。

²⁷ インバウンド：外から中へ入り込むこと。特に外国人の訪日旅行のこと

²⁸ IJUターン：Iターンは出身地以外の地方へ移住すること。Jターンは出身地の近くの地方都市へ移住すること。Uターンは出身地に戻ることに努めます。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
町内企業への訪問件数	74社	440社/11年	9 
町内企業の経営革新に関する計画認定件数（地域未来投資法等）	1社	11社/11年	9 
町内企業増設社数（企業立地促進奨励金申込み件数）	4社/年	33社/11年	9 
町内企業への公共事業等の受注割合	64%	80%	9 
イクボス・ファミボス宣言 ²⁹ 取り組み町内企業数	16社	30社	5. c, 8. 5 
事業承継件数（商工会アンケート『後継者候補』）	35社	60社	9 
町内起業者数（創業支援事業）	3社/年	33社/11年	9 
北栄町商工会加入者数	377社	380社	9 

【みんなで取り組むこと】

- ・地元商店の利用・販売促進に向けた地域内循環に取り組みましょう。
- ・学校・イベント等での職場体験活動に参加し、地元企業への理解を深めましょう。
- ・女性・障がい者などすべての人が働きやすい環境づくりを推進しましょう。

²⁹ イクボス・ファミボス宣言：部下の仕事と家庭の両立を応援し、育児や介護をしながら働き続けられる職場環境づくりを宣言するもの

第3項 観光の振興

1. 観光資源の活用

【現状と課題・施策の基本的方向】

青山剛昌ふるさと館の総入館者数は平成30年度が約16万1千人、令和元年度には約21万9千人と、近年急増しており、いまや鳥取県中部を代表する観光施設として人気を集めています。

今後も、国内外におけるプロモーションをはじめ、様々なメディアを活用したPR、関係機関と連携したイベント開催による誘客活動を行い、コナン通り周辺のにぎわい創出と修景整備の取り組みを進めることで観光客の増加につなげるとともに、町内で観光客が滞留できる環境を整備する必要があります。また、農産物・文化・歴史・文化財など本町が有する文化観光資源を「名探偵コナンに会えるまち北栄町」とあわせて活用・発信することで、町内全域でのにぎわいと活力につなげる必要があります。

名探偵コナンを活用した修景整備等によりコナン駅から青山剛昌ふるさと館へ続くコナン通りと周辺の魅力向上を図り、世界で唯一「名探偵コナンに会えるまち」というイメージを幅広く浸透させ、本町に誘客して、交流人口増につながる取り組みを進めます。併せて、レークサイド大栄や北条オートキャンプ場、道の駅などの観光施設を活かし、本町の観光資源の魅力を多くの方に知ってもらい、その魅力をさらに高めることで特色ある観光資源の振興を図り、にぎわいと活力のあるまちづくりを目指します。

【施策の内容】

(1) 名探偵コナンや特産品等を活用した観光地づくり

- ・青山剛昌ふるさと館を、「名探偵コナンに会えるまち」北栄町のシンボルとして、必要な機能を取り入れ充実させ、町民はもちろんのこと、ファンや観光客にも愛される施設に再整備します。
- ・コナン駅の駅舎を整備し、観光の拠点施設として誘客に活用します。
- ・名探偵コナンに会えるまちとして、コナン駅やコナン通り、青山剛昌ふるさと館など名探偵コナンを活用した観光ルートづくりを推進し、交流人口の増加を図ります。
- ・観光客の満足度の向上及び、地域への経済効果の発現を図るため、宿泊施設や飲食物販店舗の開設、名探偵コナンを活用した商品開発を支援します。
- ・個人及び団体の観光客を幅広く誘致するため、農業体験やものづくり体験等の素材を活用した着地型観光プランの造成を支援します。

(2) 観光情報の発信・誘客体制づくり

- ・青山剛昌ふるさと館をはじめ、レークサイド大栄、お台場公園、北条オートキャンプ場、道の駅などの観光施設や観光農園、国史跡由良台場跡などの文化・歴史・文化財等あらゆる分野を取り上げながら北栄町の魅力をアピールするために、県や観光団体との連携により、様々なメディア、イベント等を活用して情報を発信します。特に、世界で唯一「名探偵コナンに会えるまち」としての優位性を広く発信するため、鳥取県等と協働して、国内外でのプロモーション活動を行います。
- ・鳥取県観光連盟や鳥取中部観光推進機構など観光団体と連携して、造成された着地型観光プランやその

他北栄町観光素材のプロモーション活動を行い、個人及び団体の観光客を幅広く誘致します。

- ・国内外に北栄町の魅力を伝えるため、外国語対応パンフレットの作成や、青山剛昌ふるさと館や町、観光協会公式サイトやSNS³⁰の多言語化を進め、より有効に情報提供します。
- ・観光客の満足度を高め、リピート率の高い魅力ある観光地をつくるため、観光案内の充実やおもてなしの向上等により観光客の受け入れ体制を整備します。



青山剛昌ふるさと館



北条オートキャンプ場

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
青山剛昌ふるさと館入館者数 （インバウンド受入数）	22万人/年 （2万人/年）	20万人/年 （3万人/年）	8.9 
町内主要観光施設入込客数	76万5千人/年	105万7千人/年	8.9 

【みんなで取り組むこと】

- ・町の観光素材を知り、町外の方に口コミなどでPRしましょう。
- ・青山剛昌ふるさと館やコナン通りを訪れ、名探偵コナンの世界に触れましょう。

2. 広域観光の促進

【現状と課題・施策の基本的方向】

広域観光については、鳥取県中部1市4町と岡山県蒜山地域における行政・観光関係団体・事業者等で構成される鳥取中部観光推進機構が、圏域の観光資源をつなぎ、一体的に広域プロモーションを行っています。また、魅力ある鳥取中部観光の姿を創り出すため、令和元年度に鳥取中部ふるさと広域連合が「第2次鳥取県中部広域観光ビジョン」を策定し、中部がひとつとなった取り組み指針を示し、中部圏域としてのあるべき将来像を示しているところです。

³⁰ SNS（エスエヌエス）：人と人とのつながりを支援するインターネット上のサービス。フェイスブック、ツイッター、LINE（ライン）、インスタグラム等

そんな中、本町の該当する「東伯耆周辺」、「とっとり梨の花温泉郷周辺」は、県内各圏域と同様に近年観光客の入込が伸び悩んでいるところですが、一方で外国人観光客数は増加傾向にある状況です。

県中部圏域が一体となって「鳥取中部」のブランドイメージ創出、観光商品の開発、情報発信に取り組むとともに早急にインバウンドに対応した受入環境を整備することで誘客を促進していく必要があります。



温泉、食、サブカルチャー³¹などをキーワードとした「癒しをテーマとした地域魅力の結びつき」を基本コンセプトに、広域観光組織「鳥取中部観光推進機構」の中部圏域の魅力を活かした周遊性や山陰道（北条道路）及び北条湯原道路等の高速ネットワークを活かした取り組み並びに今後さらなる入込客数の増加が予想されるインバウンドへの取り組み等を支援することにより、鳥取県中部圏域への観光誘客を目指します。

【施策の内容】

（１）圏域の魅力度アップ

- ・鳥取県中部圏域の観光関係団体と連携しながら、特産品をはじめ地元素材を活用した周遊性のある取り組み及び国内外への戦略的な魅力発信を支援します。
- ・広域観光組織による「とっとりインバウンドおもてなし店³²」登録制度、Wi-Fi 環境³³の整備など、外国人観光客のニーズに対応したおもてなしの環境整備を支援します。
- ・中部圏域にとどまらず、県内観光施設や観光関係団体との連携により、広域的な観光ルートを整備します。
- ・鳥取砂丘コナン空港や駅をはじめとした交通拠点及び周辺観光施設と北栄町との結節を観光関係団体と連携して交通事業者等に働きかけ、観光客の利便性向上を図ることで圏域としての魅力度アップに努めます。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（H30実績）	目標（R12目標）	SDGs
鳥取県中部圏域観光入込客数	176万1千人/年	250万人/年	8.9, 17.17  

【みんなで取り組むこと】

- ・中部圏域の観光素材を知り、圏域外の方に口コミなどでPRしましょう。
- ・中部圏域の観光名所や温泉を訪れ、その魅力に触れましょう。

³¹ サブカルチャー：伝統的文化ではなく、最近になって認められてきた大衆文化のこと。映画やアニメ、ゲーム等

³² とっとりインバウンドおもてなし店：外国人旅行者への食事・買物等の利便性を高めるため、言語対応されたメニューや店内表示を行うとともに、Wi-Fi 及びキャッシュレスの環境が整備された店舗

³³ Wi-Fi 環境：無線 LAN でインターネットに接続できる環境のこと

3. 道の駅の再整備

【現状と課題・施策の基本的方向】

本町には2つの道の駅があり、それぞれが地域の魅力を発信する拠点として機能しています。このうち、道の駅「北条公園」は、休憩・情報発信・地域連携機能が集積する「国道9号南エリア」と、北条オートキャンプ場を主体とする「国道9号北エリア」によって構成されており、相互が補完し合いながら地域の集客・交流拠点としての役割を担っています。しかしながら、平成5年の道の駅登録から約27年が経過し、施設の老朽化や多機能化への対応の遅れ、周辺道の駅との競合による入込客数の減少等、様々な課題が出てきています。その一方で、本施設周辺では、山陰道北条道路と北条湯原道路が開通する予定であり、人とモノの動きが大きく変化することから、道の駅への立ち寄りをいかに向上させるかが大きな課題となっています。また、道の駅に求められる社会的役割も変わってきており、昨今の災害発生状況を踏まえ、災害時の避難所及び復旧・復興の拠点としての機能等も求められています。

このような状況を踏まえ、町では令和元年度に道の駅「北条公園」再整備基本計画を策定し、再整備の基本的方向、導入施設の内容・概略規模、事業スケジュール等の方針を定めました。本計画に基づき、町の代表的な地域資源である“砂丘地農業による豊かな農産物”や“白砂青松の魅力的な自然景観”等の「北条砂丘めぐみ」を更に磨き上げ発信するとともに、地域住民も集い楽しめる場として整備することによって、交流人口を一層拡大させ、地域経済の活性化、地域振興の拠点となる道の駅としていきます。


また、道の駅「大栄」についても、将来的な山陰道北条道路の開通や、施設の多機能化への対応の遅れ等の課題があることから、再整備に関する検討を行います。

【施策の内容】

(1) 道の駅「北条公園」再整備

- ・基本計画に基づき、国や施設の管理運営者と連携しながら、道の駅の設計、建設作業等を進めます。
- ・道の駅の管理運営については、施設の設計段階から運用の段階まで民間のノウハウを最大限に活用していきます。
- ・再整備に当たっては、道路管理者である国土交通省が道路利用者に必要な休憩施設等を、町が地域振興のための施設を整備していくこととしています。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
道の駅「北条公園」への立寄者数（レジ通過者数）	4万3千人/年	33万人/年	8 

【みんなで取り組むこと】

- ・農産物等直売所、レストランで地元産食材に触れましょう。
- ・北条オートキャンプ場で地元の自然に触れましょう。

第2節 生涯学び未来を育てるまちづくり (教育・生涯学習・子育て・文化・スポーツ)

子どもが健やかに育ち、自らの能力を発揮できる環境を整えるとともに、豊かな自然環境や歴史・文化をはじめとした地域資源を最大限活用し、北栄町ならではの魅力ある教育機会の提供を行うことで、北栄町で生まれ育ってよかったと子どもたちが心から思える環境をつくります。また、子育てを総合的に支援し、仕事と両立しながら子どもを安心して生み育てられるためのまちづくりを行います。北栄町の様々な文化財の活用、文化・芸術活動の推進を行うとともに、生涯学習のサポート、生涯スポーツの振興を行うことで、町の歴史・文化を次世代に伝えていくとともに、町民一人ひとりが生活を豊かなものにしていくことを支援します。



チャレンジ!!通学合宿 大学生ボランティアと



給食の地産地消率 県内No.1



こども園での食育



中学生の職場体験 こども園で園児とかけっこ

第1項 未来をつくる教育の推進

1. 教育環境の充実

【現状と課題・施策の基本的方向】

核家族化や少子化が進む中、子どもたちを取り巻く生活環境・社会環境は著しく変化しています。子どもは、北栄町の未来を託すかけがえのない宝であることから、このような厳しい時代の中でもしっかりと子どもたちを育てられる環境づくりを推進する必要があります。

学校では、主体的・対話的で深い学びを通して、身につけた基礎的・基本的な知識・技能を駆使して、粘り強く問題を解決したり、よりよいコミュニケーションを図ったりする力を育成します。

【施策の内容】

(1) 生きる力の育成

- ・少人数学級による習熟度に応じた授業やICT教育の導入により、学力の向上対策を図ります。
- ・人権教育、体験活動、食育、スポーツ機会の提供などを通じて、豊かな心と社会性、健やかな体を育む活動を推進します。
- ・特別支援教育の充実、スクールカウンセラー³⁴やスクールソーシャルワーカー³⁵の配置により、子ども一人ひとりの状態・状況に応じたきめ細かな個別支援を行います。


(2) 家庭や地域と連携した切れ目ない教育

- ・学校と家庭や地域、こども園や小中高の年齢段階別の教育機関同士など、関係者間での連携を図り、一体的で切れ目のない教育環境をつくります。

(3) グローバル人材の育成


- ・小学校外国語授業や中学生英語力向上事業を通じて、異文化に対する理解を深めるとともに、異なる文化を持った人とも生きる資質を育てるため、国際理解教育を進めます。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
全国学力・学習状況調査平均正答率	・小6＝国語61%（国63.8、県63）、 算数63%（国66.6、県63） ・中3＝国語71%（国72.8、県73）、 数学58%（国59.8、県60）、 英語55%（国56、県54）	・小6＝国県数値以上 ・中3＝国県数値以上	4 

³⁴スクールカウンセラー：児童・生徒の悩みの相談に応じるとともに、教師や保護者に対して指導・助言を行う専門家

³⁵スクールソーシャルワーカー：いじめや不登校、虐待、貧困など、学校や日常生活における問題に直面する子どもを支援する社会福祉の専門家

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
不登校児童生徒の出現率	<ul style="list-style-type: none"> ・小=0.64% (H30 国 0.69、県 0.86) ・中=2.78% (H30 国 3.64、県 3.58) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小=国県数値以下 ・中=国県数値以下 	4 

【みんなで取り組むこと】

- ・子どもと向き合い、家庭学習に取り組みましょう。
- ・「家庭教育・家庭学習の手引き」をよく理解し、実践につなげましょう。

2. 地域を支える人材の育成

【現状と課題・施策の基本的方向】

出生数の減少と若者世代の地域外流出により、地域の将来を担う人材をいかに確保していくかということが重要な課題となっています。地域外へ出た人材が北栄町に戻り定住するためには、子どものときから自分の生まれ育った町と地域の良さを知ってもらい、誇りと愛着を持ってもらうことが必要です。

学校や家庭だけでなく、地域が子どもを守り育てていく主体の一人であるという意識の醸成を図りながら、地域社会全体で将来の北栄町を担う人材となる子どもへの関わりづくりや子どもが地域に育てられたことが実感できる取り組みを推進します。



SDGs ほくほくプラザ応援宣言



瀬戸獅子舞を習う高校生

【施策の内容】

(1) 地域で教育を支える体制づくり



- ・保護者及び地域が学校教育に参画するコミュニティスクール³⁶の導入、実践を進めます。
- ・学校長期休業中の地域内での子どもの活動を支える「地域で子どもを育てる体験活動支援補助金事業」を推進します。

(2) 地域資源を活用した多様な実践型学習の提供

³⁶ コミュニティスクール：学校運営協議会制度。学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させるもの

- ・職業体験や環境学習等、地域の学びの機会を提供し、子ども達の将来の選択肢や可能性を広げます。
- ・鳥取中央育英高校や鳥取大学と連携し、学生による地域資源等を活用した実践型学習を支援し、課題発見・解決力の向上を目指します。
- ・町の歴史・文化を身近に感じ、北栄町の素晴らしさに気づける機会を提供します。
- ・ほくほくプラザ（北栄人権文化センター）で、周辺市町村の企業とともに具体的な地域におけるSDGsの推進に係る教育プログラムを提供します。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある生徒の割合	中3＝35.9%（国39.4、 県40.8）	中3＝国県数値以上	11 
鳥取県の課題に対してアイデアがある高校生の割合（実践型学習「地域探究の時間」の事前事後アンケート）	41.4% （事前30.4%）	50%	4 

【みんなで取り組むこと】

- ・同日公開参観日に参観し、子どもたちの様子を知りましょう。
- ・地域で子どもを見守り、育む意識を醸成しましょう。
- ・身近な歴史や文化に触れましょう。

3. 生涯学習活動の推進

【現状と課題・施策の基本的方向】

教育基本法に盛り込まれた「生涯学習の理念」を踏まえ、社会のあらゆる分野、領域において「いつでもどこでもだれでも」主体的に学習活動ができるよう中央公民館、大栄分館、図書館及び北栄みらい伝承館（北条歴史民俗資料館）などの社会教育施設とともに、歩いて行ける自治会施設で実施する生涯学習出前講座等による学びや情報の提供の場を設け、様々な生涯学習活動の支援を行っています。しかし、近年の社会情勢や生活環境の変化に伴い、地域や町民の学習ニーズや課題は多様化してきています。また、地域における町民同士の関係の希薄化から行事等の実施が困難になってきています。

これらに対応するため、さらに地域に根差した学びの場所や体験活動等の学習機会を積極的に提供するとともに、各種指導者や自主的に活動・運営ができる団体でリーダーやコーディネートできる人材の育成への支援が重要となってきています。

今後は、北栄町教育大綱で定める「学びを通して 夢を実現する人づくり」を基本理念に、家庭・学校・地域などあらゆる分野が幅広く連携し、町民一人ひとりが地域の特長やそれぞれの力を活かして、積極的に「できることを できる時に できる形で」取り組むとともに、自分の目標に向かって楽しく学び、幸せ

で、充実した人生を送ることができ、地域や家庭で子どもの成長や高齢者の暮らしを見守りながら、互いに主体者として「住み続けるなら北栄町」をつくっていくための「人づくり」を進めます。

【施策の内容】

(1) 生涯学習機会と情報の提供

- ・中央公民館など社会教育施設及び自治会施設での学習の場の充実に努めます。
- ・多様な課題やニーズに対応した効果的な学習情報の提供を図ります。
- ・あらゆる世代に対応した学習機会の提供に努めます。

(2) 町民活動の支援

- ・自治会への生涯学習メニューの提供と研修等を通じた人材の育成を支援します。
- ・社会教育施設、自治会施設等で活動する町民主導の学習サークルの育成を促進します。
- ・自立した学習活動団体、個人の育成と学習成果の地域還元を支援します。
- ・地域や家庭で子どもの成長や高齢者の暮らしを見守る活動を促進します。

(3) 図書館の充実

- ・図書・雑誌・視聴覚資料など資料の充実に努めます。
- ・情報提供サービスやレファレンス³⁷機能の充実に努めます。
- ・講座や催し物等実施により図書館機能の充実に努めます。
- ・地域を支える情報拠点として、情報発信に努めます。
- ・「今こそ絵本を！」事業を推進します。






シニアクラブ 暮らしの講座「ペーパークラフト作り」



読みメンお話し会 図書館で

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
生涯学習出前講座の参加者数	2,878人	3,000人	4, 11, 17.17   

³⁷ レファレンス：図書館などで、利用者の問い合わせに応じ、図書の照会や検索を行うこと

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
中央公民館利用者数 ※各講座や文化教室、大栄分館（指定管理）の利用者含む	69,000 人	90,000 人	4, 11, 17.17   
図書館来館者数 ※北条分室も含む	58,765 人	62,000 人	4, 11, 17.17   

【みんなで取り組むこと】

- ・自主的、主体的に学習に取り組み、学びの輪を広げましょう。
- ・安心、いきがいのある地域づくりのため、積極的に地域活動に参加し、生涯学習活動で得た成果を地域の中で活かしましょう。
- ・「絵本は人生に3度」をテーマにあらゆる世代で絵本に親しむ機会をつくりましょう。

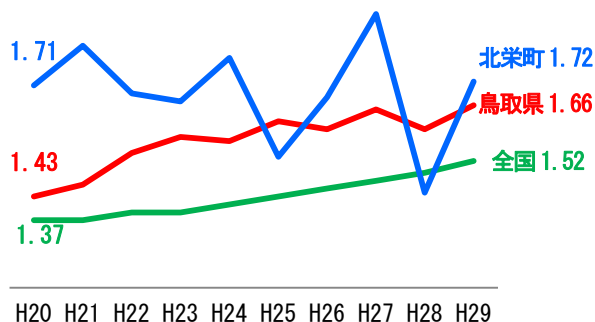
第2項 子育て支援の充実

1. 結婚、出産、子育てに安心、喜びを感じられる環境づくり

【現状と課題・施策の基本的方向】

合計特殊出生率の低下、晩婚化、未婚率の上昇などで子どもの出生数の増加が見込まれない中、結婚期や出産期を迎える世代に対しては、結婚から出産・子育てへの関心と期待を抱かせることや、周りからのサポートがあることにより安心感を抱いて出産等が行える環境づくりが必要です。また一方では、近年の社会の変容に伴い、若年齢の予期しない妊娠や、虐待歴やDV³⁸経験があるなど、出産後の養育において特に支援が必要となるケースも生じてきています。

これまで北栄町では、妊娠・出産・子育てに関するワンストップ窓口として子育て世代包括支援センター（通称：ネウボラ）を中心に支援体制を整備してきましたが、引き続きこれによる支援を充実させていきます。



合計特殊出生率の推移



子育て支援センター

【施策の内容】


(1) 安心して子育てできる環境整備

- ・親として子育てに関わることの楽しさと必要性について、積極的に啓発します。
- ・子育てする人に寄り添い、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを推進します。


(2) 次世代教育

- ・将来親になる児童生徒に対し、予期せぬ妊娠、虐待予防につなげるための「生きるための心の教育」に取り組めます。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
町の子育て支援施策に満足する人の割合 (町民アンケート) ※「関心がない」「無回答」を除いた構成比	71.8%	85%	3 

³⁸ DV (ディーブイ)：家庭内における暴力行為。特に、配偶者や恋人など近い関係にある異性への暴力

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
妊婦面談	100%	100%	3 

【みんなで取り組むこと】

- ・妊娠・出産・子育てについて不安なことは誰かに相談しましょう。
- ・“^こ孤育て” ^{ゼロ}0！を目指しましょう。

2. 子育てと仕事の両立支援

【現状と課題・施策の基本的方向】

核家族化と保護者の就労により子育てと仕事の両立は子育て家庭の大きな負担となっています。経済的な負担軽減はもとより、就労時間の多様化による預かり時間や発病した子の保育などでも課題は多く、これらに対応する支援サービスの充実も求められています。

子どもはこれからの社会を担う力として大切な存在です。子どもにとってより良い未来を楽しく期待を持って切り開いていけるよう、世代間、地域がつながり、安心して子どもを産み育てられる社会の実現を目指し、社会全体で子育てを支援する支え愛の取り組みを進めるため、今後もニーズに即した多様な支援を充実させていくことが必要です。

【施策の内容】

(1) 子育て世帯への支援

- ・保育料の無償化や在宅育児世帯支援事業給付金により保育の経済的負担の軽減を行います。
- ・延長保育、病児・病後児保育、休日保育、放課後児童クラブの実施による保育サービスの充実を図ります。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
こども園入所待機児童	0人	0人	11 
放課後児童クラブ待機児童	0人	0人	11 

【みんなで取り組むこと】

- ・どの子どもわが子のように見守り支えていきましょう。
- ・仕事も家事も子育ても分担しましょう。
- ・職場では子育てする人への理解を深め、子育て・仕事を両立できる環境を整えましょう。

第3項 文化・芸術の振興

1. 文化活動及び文化財の保存・活用の推進

【現状と課題・施策の基本的方向】

本町は、古墳の密度が県下有数であり、国史跡由良台場跡や六尾反射炉跡、国の重要文化財である仏像2体がある東高尾観音寺をはじめ全国に誇れる史跡や文化財のほか、前田寛治氏等の多くの芸術家や文化人を輩出しています。この素晴らしい文化的財産について、北栄みらい伝承館（北条歴史民俗資料館）を核とした展示やイベント、ガイドマップ・地域副読本を活用するなどして、町内外の人たちに知る機会を提供していますが、その存在や価値が十分に浸透しているとはいえません。

また、文化・芸術活動に積極的に取り組んでいる人や団体もあり、町規模では県下唯一の美術展を長年開催したり、中央公民館を中心に行事や各施設における芸能や作品の発表・展示を積極的に行ったり、北栄文芸を発行したりすることで町民の素晴らしい活動に触れ、新たに活動を始めるきっかけにもなっていますが、活動する人の固定化、高齢化も課題となっています。

先人が築き、継承してきた「文化の薫るまち」として、活動や素晴らしい文化的財産を次の世代に引き継ぐため、質の高い優れた文化・芸術の鑑賞・体験機会の提供について様々な取り組みをし、より工夫することにより、創造力や感性豊かな情操を養い、地域の文化・芸術に親しみ、高めることのできる人材の育成に努めます。

また、「北栄町文化財保存活用地域計画」に基づき、文化財資料の調査、研究、保存とともに、積極的な活用を行うことにより、それぞれの地域の特長に気づくとともに郷土への誇りや愛着心を育み、このことが活かされた地域づくりが進められるよう取り組みます。

加えて、本町は漫画「名探偵コナン」（週刊少年サンデー連載）の作者、青山剛昌氏の出身地でもあります。このキャラクターを活用し様々なまちづくりを展開していますが、本町発の「マンガ文化」を世界に向けてさらなるアピールをし、漫画・アニメ文化の振興に寄与するとともに、町民をはじめ多くの人たちに、より親しみ、誇りを持てる取り組みを進めます。



東高尾観音寺



地域副読本「まちの姿」「歴史・人物編」

【施策の内容】

(1) 地域の伝統文化芸能の伝承

- ・郷土の民俗芸能・文化の掘り起こしと支援を行います。
- ・郷土の民俗芸能・文化の伝承保存・記録を行います。
- ・郷土の民俗芸能・文化を伝承するため、後継者の育成を図ります。

(2) 文化・芸術活動の推進

- ・優れた文化・芸術に親しむ機会の充実を図ります。
- ・他の文化施設や関係機関と連携し、北栄町の文化芸術の振興を図ります。
- ・情報発信等により、文化・芸術活動に取り組む人の増加を図ります。

(3) 文化資料の保存、活用、啓発

- ・「北栄町文化財保存活用地域計画」に基づき、文化財資料の調査、記録、収集、整理、保存、活用を図るとともに地域に合った歴史・文化的な取り組みを支援します。
- ・北栄みらい伝承館（北条歴史民俗資料館）を情報発信拠点として、所蔵資料の展示など、積極的な活用を行います。
- ・広報誌、各種メディア媒体を活用し、文化資料の啓発を図ります。
- ・全国に誇れる国史跡由良台場跡・町指定文化財六尾反射炉跡、前田寛治氏、生田和孝氏、加藤廉兵衛氏などについて積極的に発信します。

(4) マンガ文化の発信

- ・北栄町から世界に向けてマンガ文化を発信します。
- ・世界に通じる「第二の青山剛昌氏」の誕生を目指し、人材育成支援と地域の雰囲気醸成に努めます。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
北栄みらい伝承館（北条歴史民俗資料館）利用者数	2,153 人	2,000 人	4, 11  
美術展事業作品展数	158 作品	160 作品	4, 11  

【みんなで取り組むこと】

- ・全国に誇れる文化・芸術、文化財等があることを知り、楽しみ、守り、町内外に広め、次の世代に伝えましょう。
- ・伝統文化を継承していくとともに、新しい文化にも興味を持ち、地域の特長を活かしながら、第二の青山剛昌氏のようなクリエイティブな文化人を輩出できる豊かでいきいきとした文化のまちづくりを推進しましょう。

第4項 スポーツの振興

1. スポーツの振興

【現状と課題・施策の基本的方向】

健康維持・増進のためのスポーツ・レクリエーションへの関心や役割は、高齢化や生活習慣病対策、心の健康など、健康寿命延伸の面からも年々高まってきています。従来、目的の根幹とされてきた競技性の追求も重要視しながら、町民の健康・体力づくり・子どもの身体の発達のために多様化するニーズ、幅広い年齢層への活動拡大に必要なニーズに応じる取り組みが重要となります。また、地域のコミュニティづくりにもスポーツ・レクリエーションが大きな役割を果たすことを踏まえた上で、スポーツ・レクリエーションの振興を図る必要があります。

現在、町民が自主的、主体的にスポーツに取り組む仕組みとして、「総合型地域スポーツクラブ」を導入し、「一般財団法人 北栄スポーツクラブ」を中心に取り組みを進めています。また、スポーツ推進委員はスポーツやレクリエーションの普及や推進のため、活動しています。

だれもが生涯を通じていつでもどこでも気軽にスポーツを楽しめる生涯スポーツ社会づくりを目指すため、町・北栄スポーツクラブ・スポーツ推進委員が一体となり、健康づくり・地域づくりを推進します。



北栄町すいか・ながいも健康マラソン大会



B&Gプール

【施策の内容】

(1) スポーツに親しむ機会の提供

- ・スポーツ団体・クラブ等の運営・活動が円滑に行われるよう支援を継続します。
- ・スポーツ推進委員と北栄スポーツクラブの連携を図ります。
- ・町民の各種運動、スポーツ・レクリエーションへの参加、健康づくりをより一層推進します。
- ・誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる環境・地域づくりを推進します。

(2) スポーツ・レクリエーションの生活化

- ・日常生活の中へスポーツとレクリエーションを取り入れ、運動の生活習慣化を図ります。

(3) スポーツ人口の増加

- ・スポーツ愛好者の底辺を拡大し、スポーツ人口の増加を促進するため、ニュースポーツ、軽スポーツの

振興を図ります。

- ・スポーツ・レクリエーションをする人、見る人、支援する人など地域全体にスポーツ・レクリエーションが浸透するため、総合型地域スポーツクラブの定着を図ります。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
北栄スポーツクラブへの加入者数	1,238人	1,400人	3, 4, 11   
各種スポーツ大会の参加者数	406人	450人	3, 4, 11   

【みんなで取り組むこと】

- ・健康に過ごせるため、自主的、主体的に運動に取り組みましょう。
- ・積極的に各種スポーツ大会に参加するなど、地域でスポーツ・レクリエーションを楽しむ機会を増やしましょう。

▶ 第3節 誰一人取り残さないまちづくり（人権、福祉、健康、男女）

年齢、ジェンダー、障がいや病気のあるなしを含め、すべての人々が生きていくにあたって自らの権利を当然に阻害されることなく、最大限能力を発揮できる環境を整え、守るとともに、そのための普及啓発に努め、私もあなたも互いに大切され、一人ひとりが尊重されるまちづくりを推進します。町民が心身ともに健康で快適に、かつ将来の不安なく暮らすことができるためのサポートを徹底するため、健康なからだづくり、高齢者福祉、障がい者福祉、地域福祉を推進します。



いきいきサロン



ほくほく食堂（こども食堂）



福祉教育「高齢者を疑似的に体験し理解を深める総合学習」



女性と町長が地域課題を話し合う

第1項 人権教育の推進

1. 人権教育の推進

【現状と課題・施策の基本的方向】

新たな人権問題が生じてきている社会情勢や国民意識の変化に対応し、国においては平成25年に「障害者差別解消推進法」、平成28年には「ヘイトスピーチ³⁹解消法」、「部落差別解消推進法」など人権問題に係る法律を整備し、人権侵害・差別に対する取り組みを強化してきています。

一方、本町においては、平成29年に実施した「人権問題に関する意識調査」では、日常生活の中で人権侵害を受けたことがあるという割合が10.3%、また、部落差別になる発言や態度に出会ったとする割合が11.8%ありました。



このように様々な差別が未だに実在し、インターネット社会でも横行・増幅している現実を踏まえ、人権を尊重するまちづくりの基本である「北栄町人権を尊重するまちづくり尊重計画」に基づき、町民一人ひとりの人権意識を高め、自分自身のこととして捉えることのできる教育・啓発を進めます。

【施策の内容】

町が行う取り組みは、すべての分野で人権尊重の視点に立って実施されますが、特に「北栄町人権を尊重するまちづくり尊重計画」で定める、人権教育・啓発の推進及び、人権の基盤となる生活の安定のための就労・福祉等に関する50の施策事業を推進します。

なお、その推進にあたっては、「誰一人取り残さない」SDGsの基本理念や、地域を丸ごとつなげる地域共生社会の基本理念を踏まえ取り組みます。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
人権を学ぶ会の開催・参加者	全自治会で開催 参加者1,112人	全自治会で開催 参加者1,200人	10, 16 
推進者の養成・配置	人権教育推進 協力員20人	人権教育推進 協力員30人	10, 16 

【みんなで取り組むこと】

- ・一人ひとりの責務として、人権を学ぶ会などの人権研修に積極的に参加しましょう。
- ・お互いに人権を尊重しあい、支え合いながら、地域のつながりを大切にしましょう。

³⁹ ヘイトスピーチ：特定の人種や民族など少数者への差別をあおる表現や排外主義的な言動

第2項 福祉の充実

1. 地域福祉の充実

【現状と課題・施策の基本的方向】

少子高齢化による人口減少や孤立しやすい世帯の増加、地域の生活課題の多様化、複雑化などにより、地域の中で生活に支援の必要な人に気づき、声かけ、助け合う意識が十分になく、必要な相談や支援につながりにくい現状があります。

そこで、すべての人が互いに尊重し合い、助け合いながら暮らしていくことのできる地域を目指し、地域住民、福祉関係者・団体等が連携して身近な相談窓口の充実を図るとともに、地域福祉の新たな担い手の養成やネットワークの構築など地域における福祉の環境・基盤づくりに取り組みます。

また、令和2年3月に策定した「北栄町地域福祉推進計画」に基づき、個人や世帯が抱える多様な生活課題に対応するため、総合相談機能の充実、地域づくりへの支援など包括的な支援を計画的に進め、地域共生社会の実現に向けて取り組みます。



北栄町地域福祉推進シンボルマーク

「地域福祉」とは、
誰もが住み慣れた地域や家庭で、
安心していきいきと暮らしていくために、
お互い助けあう関係を築きながら
誰もが支えあう地域共生社会を
実現しようとするものです。



あいさつとチャイルドシートを推進する民生児童委員



「ほっこりひろば」は、交流を目的にしたおしゃべり会

【施策の内容】

(1) 地域における支え合い





- ・「一人で悩まずに、まずは相談」できるよう、地域住民の皆さんや関係機関が連携し、相談につながる
ことのできる地域づくりに取り組みます。

- ・地域住民の積極的な参加によるネットワークづくりを推進し、誰もが孤立しない、人と人との交流や助け合いのある地域づくりを推進します。

(2) 相談支援体制の充実

- ・病気や障がい、生活困窮、ひきこもり、地域からの孤立など、生活の困難さや複雑な問題を抱えている人への相談支援体制を充実するとともに、関係機関との連携などにより個々の状況に応じた支援を実施していきます。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
自治会や地域での活動に参加している人の割合	75.1%	85%	3, 17.17  
身近な支え合いの活動に参加したいと思う人の割合	45.8%	65%	3, 17.17  

【みんなで取り組むこと】

- ・自分にできる地域の支え合いやボランティア活動に積極的に参加しましょう。
- ・困っている人や支援の必要な人について理解し、地域の中で共に助け合いましょう。
- ・悩みごとはひとりで抱えずに、地域の中で相談し合ったり、必要な相談窓口を積極的に利用しましょう。

2. 高齢者福祉の充実

【現状と課題・施策の基本的方向】

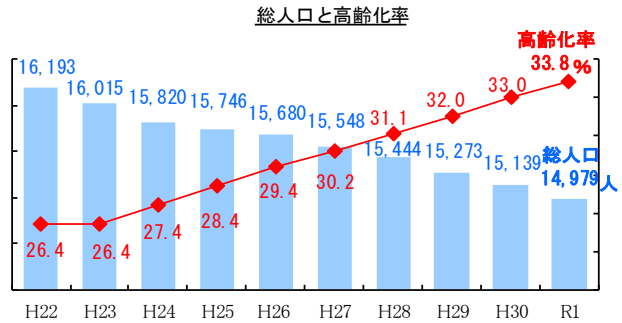
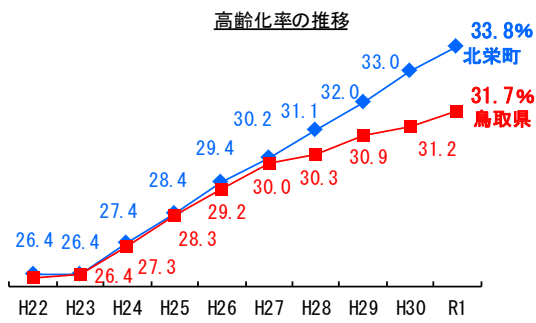
総人口が年々減少する一方、高齢者数（65歳以上）は増加しており、我が国全体が抱える課題である高齢化率の上昇は、本町が抱える課題でもあります。また、一人暮らしの高齢者や認知症高齢者など支援を必要とする高齢者も増加傾向にあります。

要介護認定者、認定率については、介護予防事業の取り組みの成果により平成29年度までは減少傾向にあったものの、平成30年度以降は横ばい・微増傾向にあるのが現状です。

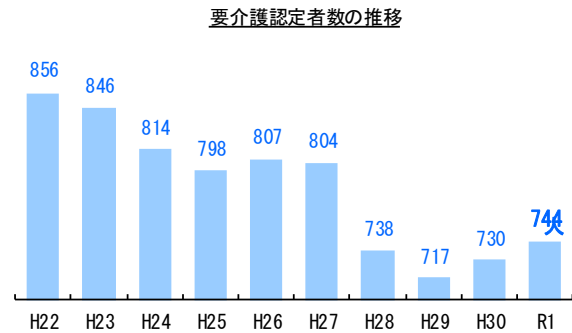
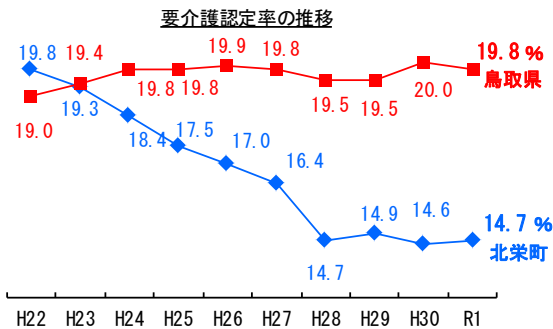
このような状況の中、高齢者一人ひとりが、“心豊かな生活”を実感し、生きがいをもって暮らしていくことのできるまちづくりを目指します。そのために、まずは、元気な高齢者を増やすこと、いわゆる「健康寿命の延伸」を目指し、高齢者の健康の保持増進を図るための介護予防事業の拡充に取り組みます。また、たとえ介護・医療が必要になっても住み慣れた地域で自立した生活を安心して続けていくことができるよう地域包括ケアシステム⁴⁰の更なる体制強化に取り組みます。

⁴⁰ 地域包括ケアシステム：地域に生活する高齢者の住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供するためのケアシステム

【高齢化の状況】 各年10月1日数値



【要介護認定の状況】



【施策の内容】

(1) 社会参加の促進

- ・認知症予防や介護予防についての啓発を図るとともに、閉じこもりを予防し、地域で高齢者が交流できる場の提供を支援します。
- ・高齢者クラブ等の自主的な団体の活動を支援します。

(2) 地域包括ケアシステムの充実




- ・高齢者が要支援・要介護状態になっても、自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けることができる体制を構築するため、地域包括支援センター⁴¹の機能充実・強化を図り、関係機関との連携に取り組みます。また、多職種協働による自立支援型地域ケア会議を継続実施し、高齢者の自立支援、生活改善を図るとともに地域資源の発掘と充実に努めます。
- ・若年性認知症対策にもつながる早期の段階からの認知症の発見や適切な診断と対応が可能な体制の整備を進めます。併せて、認知症高齢者やその家族を地域全体で支援する体制を整備し、ネットワークの構築を図り、認知症高齢者が尊厳を保ちながら生活できる体制を推進します。
- ・高齢者の在宅生活を支えるため、元気な高齢者や町民が担い手となって運営する町民主体の活動や、NPO⁴²、ボランティア、民間企業、社会福祉法人等の多様な主体による活動の活性化を図り、生活支援サービスの提供体制を推進します。
- ・町民主体で参加しやすい地域に根ざした介護予防事業を推進、支援し、高齢者の健康の保持増進を図ります。

⁴¹ 地域包括支援センター：高齢者への総合的な生活支援の窓口となる地域機関

⁴² NPO（エヌピーオー）：営利を目的とせずに取り組む民間組織

- ・タクシー利用料助成などの移動支援サービスの充実により、閉じこもり予防と生活範囲の拡大を図ります。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
要介護認定率	14.7%	14.7% (現状維持)	3 
いきいきサロン ⁴³	45自治会	全自治会	3, 17, 17  

【みんなで取り組むこと】

- ・「バランスの良い食事を摂る」、「運動習慣をもつ」、「積極的に社会参加する」の3つのライフスタイルについて幼少期から意識して生活し、健康で活動的な生活を目指しましょう。
- ・高齢者が孤立しないよう社会全体で見守り、共に助け合しましょう。

3. 障がい者福祉の充実

【現状と課題・施策の基本的方向】

平成30年4月の障害者総合支援法の一部改正により、「生活」と「就労」に対する支援の一層の充実や高齢・障がい者による介護保険サービスの円滑な利用を促進するための見直しを行うとともに、児童福祉法の改正により、障がい児支援のニーズの多様化にきめ細かく対応するための支援の拡充等が図られています。

また、平成24年には、障がい者を虐待から守り、養護者に必要な支援を行うため「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」の施行、平成25年には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が策定されるなど、障がい者の権利擁護等を目的とする一連の法律が整備されました。

しかし、いまだ障がいのある人に対する地域の理解は十分とはいえない状況にあり、今後もさらに啓発活動の充実を図り、偏見や差別などをなくしていくことが必要です。

また、障がいのある人が地域で日常生活を送るために必要な福祉サービスについても、社会資源は十分とはいえず、生活の質を高めるために必要な福祉サービスが必要に応じていつでも受けられるよう一層の充実が求められ、社会資源に関する情報発信を推進する必要があります。

さらに、障がいのある人の自立した社会生活を支援するためには、交流の場、学習や就労の機会の確保が重要であり、視覚障がいや聴覚障がいに配慮した情報提供、コミュニケーション支援や就労移行支援などの福祉サービスの充実が必要です。

これらの課題解決により障がいのある人が、住み慣れた地域で自立した生活を送ることのできる環境を整備し、障がいのある人もない人も、ともに暮らし、自立し、社会参加できるまちを目指します。

⁴³ いきいきサロン：一人暮らしや家に閉じこもりがちな高齢者の社会参加を促進するため、地域で運営するサロン

【施策の内容】

(1) 啓発・広報の推進

- ・町報・ホームページ等で啓発・広報活動を継続的に行います。
- ・障がいのある人への理解が深まるよう福祉教育やボランティア活動の活性化に取り組みます。
- ・障がいに対する偏見を人権問題として位置付け、人権研修の一環として啓発に努めます。

(2) 地域生活の支援

- ・障がい者地域生活支援センターに相談員を継続設置し、相談体制や情報提供を一層充実します。
- ・障がい者地域自立支援協議会や家族会などの機会をとらえ、地域での生活に必要な障がい福祉サービスについて意見を伺い、支援体制の整備を図ります。
- ・障がいのある人が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、サービス供給体制の整備や情報提供、権利擁護の充実に努めます。
- ・障がい者等すべての人が安全に安心して生活し、社会参加できるよう、ユニバーサルデザイン⁴⁴に配慮した生活環境の整備や生活空間のバリアフリー化を推進します。

(3) 自立と社会参加の促進

- ・当事者や家族の会を支援し、交流や学習の場を広げます。
- ・障がいのある人の雇用促進のため、関係機関と連携し、就労支援に努めます。
- ・移動サービスの充実を図り、生活範囲の拡大を促進します。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
施設入所者数 （施設入所者の地域生活への移行）	41人	38人	3 
緊急受入等をする地域生活支援拠点 の設置	0か所	1か所 （中部圏域で）	3 
福祉施設から一般就労への移行者数	3人	8人	3, 8, 5, 10.2   

【みんなで取り組むこと】

- ・障がいのある人への正しい理解を深めましょう。
- ・障がいのある人の課題の解決に向けて地域で支援しましょう。

⁴⁴ユニバーサルデザイン：障がいの有無や年齢などにかかわらず、すべての人にとって使いやすいように始めから意図して作られた製品や施設、環境、情報のデザイン

第3項 健康づくりの推進

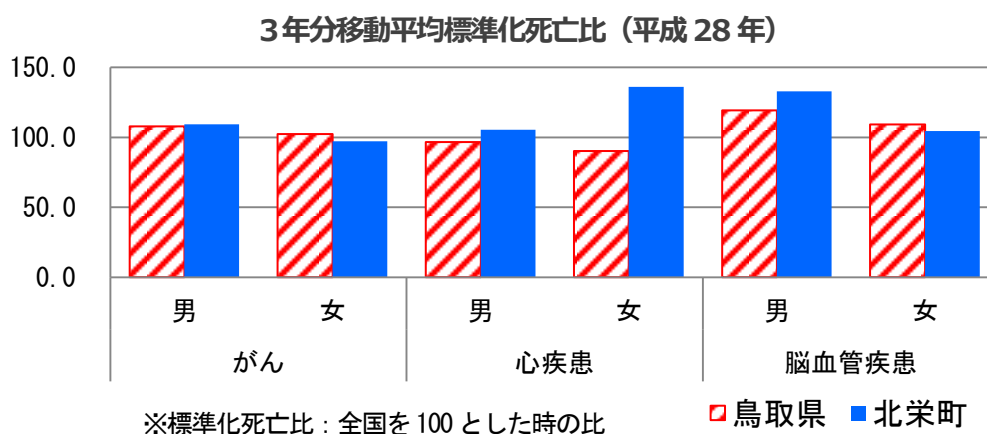
1. 健康づくり活動の推進

【現状と課題・施策の基本的方向】

私たちが目指す健康な生活とは、病気のあるなしにかかわらず、「誰もがそれぞれの生きがいを持ち、自分らしく安心して楽しく暮らせることができる生活」のことをいいます。

北栄町では男女とも急性心筋梗塞・脳血管疾患でなくなる人の割合が多く、いずれも動脈硬化が関連しています。「運動習慣の定着」、「健全な食生活の定着」、「健康診査の充実」、「生活習慣病の予防」そして「心の健康づくり」を計画に定めて、健康な生活を目指します。

また、近年の猛暑は「災害級の暑さ」と言われており、熱中症による救急搬送も増加しています。そのため、正しい知識や予防対策の重要性が高まっています。








【施策の内容】

(1) 健康づくりの推進

- ・運動習慣の定着
- ・健全な食生活の定着
- ・心の健康づくり
- ・健康診査の充実
- ・生活習慣病の予防
- ・熱中症の予防

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
特定健診受診率	41.8%	60%	3 

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
週2回以上30分以上の運動をする人の割合	35%	50%	3 
食生活改善推進員組織数	44 自治会	63 自治会	2, 2, 3, 17.17   

【みんなで取り組むこと】

- ・友人知人に声かけ、一緒に運動する機会をつくりましょう。
- ・運動の大会や講座等を活用し運動の継続につなげましょう。
- ・食育を意識しましょう。
- ・自分の時間を楽しむ大切さを知りましょう。
- ・健康診査を受けて身体の状態を知りましょう。
- ・禁煙、節酒、歯の健康に取り組みましょう。

第4項 男女共同参画社会の推進

1. 男女共同参画社会の環境整備

【現状と課題・施策の基本的方向】

北栄町では平成18年度に「北栄町男女共同参画推進条例」を制定、「北栄町男女共同参画基本計画」を策定し、この計画に基づいて男女共同参画と女性活躍推進の関連施策を推進してきました。男女共同参画社会を目指す法的制度上の改善は着実に推進されていますが、固定的な性別役割分担意識の解消には至っておらず、男女の平等理念が私たちの生活の中に根づいているとはいえません。

人口減少や少子高齢化が進む中、持続可能な社会を確立するには、家庭、地域、職場等のあらゆる場面で男女共同参画の視点を取り入れ、性別にかかわらず誰もが認められ、責任を分かち合い、支え合い、活躍できる社会の実現が必要です。

【施策の内容】

(1) 男女共同参画を進める社会づくり

- ・政策・方針決定の場への女性の参画を拡大します。
- ・男女共同参画の理解を広げる広報啓発、学習機会の充実を図ります。
- ・防災・復興分野における男女共同参画の推進を図ります。



(2) 働く場、家庭における男女共同参画の実現

- ・仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進を図ります。
- ・農林水産業・商工業等の自営業における男女共同参画の確立を図ります。
- ・育児や介護にかかる相談窓口やサービスの充実を図ります。

(3) だれもが健康で安心して暮らせる社会づくり

- ・男女間におけるあらゆる暴力の根絶に向けた啓発活動を推進します。
- ・安心して相談できる体制づくりに取り組みます。
- ・生涯を通じた男女の健康の支援を行います。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
委員会・審議会における女性委員の割合	37.9%	男女ともに40%を下回らない	5 
男女が平等に参加できる社会づくりに対する満足度（町民アンケート）	51.9%	70.0%	5 

【みんなで取り組むこと】

- ・仕事と生活の調和に意識して取り組みましょう。
- ・学習機会等を利用して、男女共同参画への意識を高め、身近な人への理解を広げましょう。

第4節 安全で持続可能なまちづくり (環境・インフラ・安全・生活)

将来にわたって持続可能な社会を築き、住み続けられるまちづくりを進めます。人口減少・少子高齢化、交通事故や犯罪などの社会問題、地球温暖化・廃棄物などの環境問題、増加・激甚化する災害なども踏まえた政策や地域コミュニティを含めた体制作りをハード・ソフト面一体となって推進します。道路、上下水道、公共施設、廃棄物処理施設、情報通信基盤など人々の生活・生命の根幹にかかわるインフラの維持・整備を進めるとともに、その適切な在り方について検討を進めます。



防災訓練



リサイクルの推進



路線バス



高速道路整備

第1項 環境にやさしいまちづくりの推進

1. 再生可能エネルギー等の活用によるまちづくりの推進

【現状と課題・施策の基本的方向】



私たちが使う電気、ガス、ガソリンなどのエネルギーはそのほとんどが化石燃料に頼っている状況です。化石燃料の大量消費により、地球温暖化、資源枯渇など環境負荷はもちろん、エネルギーに関するお金は町外、国外にほとんど出ていってしまうことになります。

そこで、徹底した省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの最大限の活用により、2050年までに地球温暖化の主な原因となっている人為起源のCO₂排出の実質ゼロを目指すとともに、それらの取り組みを地域でお金が回る仕組みづくり、災害時のインフラ維持のための分散型エネルギーシステムの構築等、経済・社会面の課題の解決につなげていくような施策を進めていきます。

【施策の内容】

- ・家庭や事業所、地域への再生可能エネルギー等設備導入の取り組みを推進します。
- ・地域新電力⁴⁵、熱供給事業等、エネルギーの地産地消の仕組みづくりを行います。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
家庭用創エネ設備 ⁴⁶ 等設置件数	354件	500件	7, 11, 13 
公共施設の地域新電力（地域の再生可能エネルギーを活用）契約率	0%	100%	7, 11, 12, 13 

【みんなで取り組むこと】

- ・家庭や事業所、地域への再生可能エネルギー等設備を積極的に導入しましょう。
- ・地域新電力会社との契約等、エネルギーの地産地消に努めましょう。

⁴⁵ 地域新電力：地域密着型の電力会社で、大手電力会社とは別に新規に参入し、電気の小売りをを行う事業者のこと

⁴⁶ 家庭用創エネ設備：一般住宅でエネルギーを生み出す設備。太陽光発電システムや給湯システム等

2. 環境にやさしいライフスタイルへの転換

【現状と課題・施策の基本的方向】

地球温暖化をはじめとする様々な環境問題は、人が活動することによって引き起こされる問題であるとされており、環境への負荷を増加させるような社会経済活動は、身近な地域の自然環境や生活環境に大きな影響を及ぼし、私たちの健康や暮らしにも影響を与えかねません。

「便利な暮らし」と「環境にやさしい暮らし」の共生により、健康で快適な生活の実現に向けた提案や取り組みを進めていきます。

【施策の内容】

- ・断熱性能に優れた省エネ住宅の建築・改修の普及促進により、エネルギー消費を減らすとともに、健康で快適な住生活の実現に取り組みます。
- ・徒歩や自転車の利用を推進し、騒音や排気ガスによる環境への負荷を減らすとともに、渋滞緩和と健康増進を図ります。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
住宅省エネ改修戸数	149戸	400戸	11, 13  

【みんなで取り組むこと】

- ・断熱性能に優れた省エネ住宅の建築・改修に積極的に取り組みましょう。
- ・近距離移動での徒歩や自転車の利用や公共交通機関の利用に努めましょう。

3. ごみの減量化と適正処理の推進

【現状と課題・施策の基本的方向】



本町では、ごみの減量化、再資源化を図るために、家庭ごみについては15分別の収集を行っています。また、地域での再生資源回収の活動を通じて再資源化が進む一方、便利さを求めた使い捨て容器の普及等により、1人あたりのごみの排出量は年々増加傾向にあります。

そこで、再資源化だけでなく、その手前のごみの発生抑制や再利用に、町民、事業者、行政が一丸となって取り組み、ごみの減量化を図っていくことが必要です。

【施策の内容】

- ・ごみ処理にかかる費用、ごみの排出の現状や、分別による再資源化などの効果等をわかりやすく示しながら、ごみの減量に向けた意識啓発を図ります。
- ・不法投棄や違法な野焼きの防止に努めます。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
一人当たりのごみ排出量（事業系ごみ除く）	668g/人日	500g/人日	11, 12  

【みんなで取り組むこと】

- ・4R⁴⁷の取り組み方法、順番を理解し、ごみの減量化、再資源化に努めましょう。
- ・ポイ捨てをしない、させない環境づくりに努めましょう。

4つのRを意識して
日々の生活の中でできる身近なことからチャレンジしてみましよう！

Refuse(リフューズ) = 断る

- マイバッグ持参でノーレジ袋！
- 使い捨ての割り箸やおしぼりは断ろう
- フリーペーパーをもらわない



Reuse(リユース) = 使い続ける

- 詰め替え容器を活用しよう！
- フリーマーケットを活用しよう
- 役場の「ゆずります・ゆずってください」コーナーを活用しよう
- レンタル品を利用しよう
- 壊れたものは修理して使おう



Reduce(リデュース) = 減らす

- 簡易包装のものを選ぶ
- 食材は必要なものだけ買おう
- 食べ物は残さず食べよう！
- 生ごみは水分を切ってから捨てよう！



Recycle(リサイクル) = 再利用する

- リサイクルステーションを活用しよう！
- 子ども会などの再生資源回収事業を活用しよう！
- お菓子の空箱などの雑紙も再生資源に出そう
- 再生品を購入しよう



⁴⁷4R: リフューズ（断る）ごみになるものを家庭に持ち込まない。不必要なものは買わない、断る。リデュース（少なくする）ごみを減らす。ものを大事に使う。できるだけごみを出さない生活をする。リユース（再使用する）繰り返し使用する。修理して使う、人に譲る。リユースできるものを使う。リサイクル（再生利用する）なるべく捨てない。リサイクルできるものは分別する。リサイクル品を買って循環の輪をつなげる。

第2項 インフラの整備

1. 交通基盤の整備・維持管理

【現状と課題・施策の基本的方向】

生活道路については、道路や橋梁等の老朽化の進行により破損箇所が増加しており、施設の長寿命化を図る維持管理が必要となっています。また、道路が持つ防災や交通機能を確保するため、道路整備が必要となっており、広域的な交流促進のため、高速道路へのアクセス向上も求められています。

地域の公共交通については、町内には広域バス路線が3本（赤碓線、栄線、北条線）と乗りあいタクシー（高尾線）が運行されていますが、人口減少や少子高齢化等により、バス利用者が減少しており、それに伴って、町の補助金負担も年々拡大しています。全国的に高齢ドライバーの交通事故が相次ぎ、社会問題化していますが、都市部と比べると鉄道やバス等の利便性は低く、高齢になっても免許を返納することができないケースも見受けられます。

これらの地域公共交通の課題に対応するため、平成30年度に、中部1市4町で「鳥取県中部地域交通網形成計画」を策定しました。中部圏域での移動ニーズに対応したバス路線の再編を行うなど、持続可能な公共交通ネットワークの構築に取り組んでいます。

また、本町では免許を持たない人の移動手段を確保するため、平成25年度からタクシー助成制度を開始しました。今後も交通と福祉の分野が連携し、共助交通の実施を支援するなど、誰もが外出しやすい持続可能な移動手段の確保を図っていく必要があります。

【施策の内容】

（1）生活道路の整備

- ・町道の改良を行い、舗装率の向上を図ります。


（2）主要幹線道路の整備



- ・「北条湯原道路」の早期整備を周辺自治体と連携し、関係機関に要請します。
- ・「山陰道」の早期整備を周辺自治体と連携し、関係機関に要請します。
- ・県道の適切な維持管理及び歩道の整備について、関係機関に要請します。

（3）持続可能な交通ネットワークの構築

- ・地域の実情、移動実態にあわせたバス路線の維持、乗りあいタクシーの運行を行います。
- ・持続可能な移動手段の確保を図るため、タクシー助成制度の見直しや共助交通の実施を検討します。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
町道の改良	74.9%	80.0%	11.2 

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDG s
町道の舗装率向上	95.8%	98.0%	11.2 
公共交通に不満を持つ人の割合 (町民アンケート)	56.6%	45.0%	11.2 

【みんなで取り組むこと】

- ・道路の適切な維持管理のため、修繕箇所を連絡しましょう。
- ・交通の支障となる草木の伐採を行い、安全な通行の確保に努めましょう。
- ・高齢者の移動手段の確保等、地域課題の話し合いの場に参加しましょう。

2. 上水道の整備・維持管理


【現状と課題・施策の基本的方向】

合併後、上水道の町内一本化を図るため、水道施設の更新や増強を行いました。配水管、水源池等においては老朽化が進んだ設備も多く、今後も安定して水道水を供給するために、耐震化など計画的な施設整備や更新が必要となっています。

【施策の内容】

- (1) 水源の保全
- (2) 老朽化した施設の更新と維持管理

【施策の目標 (KPI)、関連するSDG s】

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDG s
配水管耐震化	20.9%	30.0%	6.1 

【みんなで取り組むこと】

- ・水資源確保のため、節水に心がけましょう。
- ・水道料金は期限内に納付しましょう。

3. 下水道の整備・維持管理


【現状と課題・施策の基本的方向】

公共用水域の水質保全と快適な住環境の確保を目的に、下水道をはじめとした生活排水処理施設整備を進めてきました。施設整備が完了してから年数が経過したことから、汚水処理施設、管渠等においては老朽化が進んだ設備が多く、計画的に維持管理を進めています。今後の更なる効率的な運営を目指して、農業集落排水をはじめとした下水道関連事業の事業統合や、北条下水道管理センターと大栄浄化センターの施設統合を検討します。

【施策の内容】

- (1) 施設・設備の長寿命化
- (2) 水洗化の促進

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
水洗化率	90.5%	100%	6.2, 14.1 

【みんなで取り組むこと】

- ・下水道未接続の場合は速やかに接続しましょう。
- ・下水道使用料は期限内に納付しましょう。

4. 公共施設・住環境の整備・維持管理

【現状と課題・施策の基本的方向】

人口減少が進行する中、既存の公共施設を維持していくことは維持管理費の負担が生じるほか、大規模改修のリスクによる多額の費用の発生が見込まれ、町財政を圧迫するだけでなく、公共サービスの低下も招きかねません。そのため、公共施設の適切なあり方を検討し、公共施設の取捨選択を行い、必要な施設については省エネ改修するなど、将来的なコストの削減を図りつつ、CO2の排出削減を進める必要があります。

町営住宅については、老朽化した町営由良宿団地の建替えが令和2年度に完了の見込みとなり、居住性・安全性等に配慮した様々な世帯に対応できる住宅の整備を行いました。

続いて向山団地の用途廃止、六尾北団地の譲渡により住宅ストックの集約化を図り、ライフサイクルコストの縮減、維持管理費の平準化を図る必要があります。



公共施設の今後のあり方を考える（役場大栄庁舎）



町営由良宿団地

【施策の内容】



（１）公共施設個別施設計画の策定

- ・公共施設の適切なあり方を検討し、各施設の個別施設計画を策定します。
- ・公共施設からのゼロカーボンを実現していくための取り組み方針を定め、地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の改定を行います。

（２）町営住宅の維持管理

- ・町営住宅について、公営住宅等長寿命化計画に基づいて、耐久性の向上、定期的な点検、予防的な維持管理の実施により良質なストック形成に努めます。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
町営住宅の適正管理	120戸	60戸	3, 11.1  

【みんなで取り組むこと】

- ・公共施設を大切に利用しましょう。
- ・これからの公共施設のより良いかたちについて、みんなで考えましょう。

5. 情報化の推進

【現状と課題・施策の基本的方向】

北栄町では、CATV伝送路のFTTH⁴⁸化による高速通信網の整備により、町内全域でインターネット環境が向上しました。これら情報通信基盤の維持・管理に加え、通信速度は年々高速化しており、情報通信基盤を高度化していく必要があります。



だれもが情報を享受し、活発に情報発信し交流できるよう、計画的な整備更新を行う必要があります。

【施策の内容】

(1) CATV環境の維持・管理等

- ・情報通信基盤の維持・管理を行い、高速化・高度化に対応していくための計画的な設備更新を実施します。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
CATV加入率 (TV)	84.41%	90.0%	9 
CATV加入率 (インターネット)	33.84%	40.0%	9 

【みんなで取り組むこと】

- ・CATVの番組を見て、地域に関心を持ちましょう。

⁴⁸ FTTH (エフティーティーエイチ)：光ファイバーを利用した家庭用の高速データ通信サービス

第3項 安全なまちづくりの推進

1. 地域防災・危機管理対策の充実

【現状と課題・施策の基本的方向】

近年、日本各地で大地震、集中豪雨による大規模土砂災害、堤防決壊による広範囲の浸水等の発生率が高まっています。また、新型インフルエンザ、新型コロナウイルスなど、新しい脅威に対する対応の強化も必要になっています。

災害や危機管理への備えを忘れることなく、日ごろから地域との交流・訓練等により防災力を高めておく必要があります。

【施策の内容】



(1) 防災体制の整備

- ・災害等緊急時を想定した体制づくりを進めます。
- ・ハザードマップ⁴⁹を随時更新し、住民周知します。
- ・新型インフルエンザ・新型コロナウイルス等の感染対策について、国・県等の関係機関と連携し、危機管理体制を強化します。
- ・町民の防災教育や防災訓練等の実施により、防災に対する意識を高めます。

(2) 自主防災組織の育成

- ・地域における防災・避難訓練の支援、防災施設の整備にかかる防災機材の助成を行い、自主防災組織づくりを支援します。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
自主防災組織の組織化	48 組織	63 組織	11, 17.17  

【みんなで取り組むこと】

- ・災害時における町の勧告・要請に従いましょう。
- ・自治会や町が実施する訓練等に積極的に参加しましょう。
- ・防災マップや関連資料の把握に努めましょう。

⁴⁹ ハザードマップ：様々な自然災害を予測しその被害範囲を図上に示したもの

2. 生活安全の対策の充実

【現状と課題・施策の基本的方向】

北栄町における犯罪、交通事故とも毎年、一定数発生しています。交通事故、犯罪の発生抑止のため、引き続き、防犯灯、防犯カメラ、交通安全施設の整備が必要になっています。

人口減少や高齢化に伴い、廃屋・空家が増加しています。倒壊、病害虫の発生のおそれがあるため解体・撤去の推進が必要となっています。

【施策の内容】

(1) 交通安全施設の整備と意識啓発

- ・交通安全に対する意識の高揚を図るため、交通安全運動期間における重点啓発、交通安全教室の開催等を行います。
- ・交通安全施設を効果的に整備し、交通事故の発生しにくい環境づくりを推進します。

(2) 防犯活動の推進

- ・あいさつ、声かけ運動の実施により町民の防犯意識の高揚を図ります。
- ・防犯設備を効果的に整備し、犯罪の発生しにくい環境づくりを推進します。

(3) 危険な空家の撤去

- ・空家等除却事業費補助金の周知を行い、危険な空家の撤去を促進します。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
補助金活用による空家撤去	8 件	毎年 8 件	11 
防犯カメラ設置(観光分を除く)	1 件	3 件	11 

【みんなで取り組むこと】

- ・運転する人は速度や交通マナーを守りましょう。
- ・歩行者等は、安全を確認して通行・横断しましょう。
- ・空家は早めに解体等を行いましょう。

第5節 人と人とのつながりを育むまちづくり（コミュニティ・町政・交流・移住定住）

町民一人一人の生活を豊かにするため、地域にそれぞれ存在し、町民の活躍の場となっているコミュニティの取り組みを積極的に支援します。また、自らの町を自ら作り、守り、育てる「町民自治のまち」の実現に向け、まずは行政が積極的に様々な場面で行政への住民参画を求め、町民・行政が同じ方向を向いて積極的に議論できる環境を整えます。他の地方自治体や国々との積極的な交流を企業、学校などと連携しながら行うことで、人々が行き交い、様々なネットワークを形成できるまちづくりを進めます。



花火や各種イベント満載「北栄砂丘まつり」



住民ワークショップ「ほくえい未来トーク」



地域に賑わい創出「北条ふるさとまつり」



江戸中期から地域で続く「由良だんじり」



移住相談会



台湾台中市大肚区との交流

第1項 地域活動・まちづくりへの参画推進

1. 協働活動の推進

【現状と課題・施策の基本的方向】

北栄町は、平成19年度に県内で最初に「自治基本条例」を制定し協働のまちづくりを推進してきました。人口減少等の社会の急激な変化や価値観の多様化によって増加した地域課題を解決するには、町民と議会と行政がこれまで以上に協働してまちづくりに取り組み、互いの役割と責任を果たすことが求められています。

また、少子高齢化による地域の担い手不足が懸念されています。町民のつながりを深めるとともに、誰もが地域に関心を持ち、地域の担い手として活躍できるよう、町民が互いに尊重し、協力し合って地域活動を担っていくことが必要です。

【施策の内容】




(1) 地域コミュニティの活性化

- ・町民の自主的な地域づくり活動への支援と、その担い手の育成を図り、持続可能な地域づくりを推進します。
- ・町民が気軽に集まることができる機会や場所の充実、地域における多世代交流を促進します。
- ・町民が地域の文化、歴史、文化財に関心を持ち、その特長を活かした地域づくりを推進します。

(2) 町民参画の推進

- ・公募による各種審議会等の町民委員の登用や、重要な条例や計画の策定にあたっての町民意見募集の実施など、町民の声が町政に反映させるシステムを確立します。
- ・民間団体や、ボランティアによる活動が充実するための支援を行い、活動団体相互の連携を呼びかけます。
- ・協働と参画に対する意識の啓発を行います。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
地域活動助成の実施件数	8件/年	100件/11年	17.17 
町民参加によるまちづくりに対する満足度（町民アンケート）	51.8%	60%	16.7, 17.17  

【みんなで取り組むこと】

- ・あいさつや声掛け、コミュニケーションを大切にしましょう。
- ・地域行事やボランティア活動に参加、協力しましょう。
- ・地域の関心を持ち、地域のことは、地域の話し合いで決定しましょう。
- ・委員の募集や各種アンケート等、町民参画制度は積極的に利用しましょう。

2. 開かれた町政運営

【現状と課題・施策の基本的方向】

町政情報の積極的な発信は、町政への理解を深め、町政への参画を促進する上で非常に重要です。町民アンケートの結果、役場からの情報発信に対し、満足している人が約 59%で、約 27%の人は不満であるとの結果になっています。また、多数の人が情報発信は必要であると感じており、より満足のいく情報発信の方法を検討する必要があります。

より良い町政運営のため、積極的な情報発信を行うとともに、幅広い年齢層からの町民意見を取り入れることが大切であり、意見や要望の受付窓口、町民が気軽に相談できる苦情相談窓口について、継続して設置することが求められています。

【施策の内容】

(1) 情報公開の推進

- ・町施策方針、目標、実施状況等の公開を促進します。
- ・審議会等の議事録をホームページに公開します。

(2) 情報提供の充実

- ・わかりやすく、適確な情報提供を行います。
- ・読みやすく、魅力のある広報誌づくりを継続します。
- ・情報伝達手段の多様化に対応して、情報を受け取る人が利用しやすい情報媒体（広報誌、告知放送、ケーブルテレビ、ホームページ、SNS、アプリ等）での発信を行います。
- ・SNSや動画、外国語、マスメディア等を活用し、全国や海外に対して、北栄町の魅力を発信します。

(3) 広聴活動の充実

- ・各種アンケート調査やパブリックコメント⁵⁰、地域座談会の実施により、広聴機会の充実を図ります。

(4) 相談窓口の設置

- ・町政に対する意見、要望、苦情等は、庁舎及び中央公民館などに設置する意見箱や、町ホームページなどでも受け付け、速やかに回答するとともに、個人情報を含まない意見は、庁舎掲示板などで意見の内容、回答を公表します。

⁵⁰ パブリックコメント：行政が施策の計画段階で原案を発表して、一般から意見を募り、その意見を考慮して最終決定を行うこと。意見公募

- ・個人に関わる日常的な相談や悩み事に対しては、情報提供体制を充実させ、専門機関の紹介などの支援を行います。




「広報北栄」で町の情報発信



町の公式フェイスブックは 4,000 フォロワー達成

【施策の目標 (KPI)、関連するSDGs】

項目	現状 (R1 実績)	目標 (R12 目標)	SDGs
役場からの情報発信・情報公開の満足度	58.8%	70%	16.6, 16.10 

【みんなで取り組むこと】

- ・町から得た情報は家庭、地域、職場等で共有しましょう。

第2項 交流の推進

1. 交流の推進

【現状と課題・施策の基本的方向】

国際交流では、平成22年7月に台湾台中県大肚郷と友好交流協定を締結しました。その後の合併によって台中市の行政区の一つとなった大肚区と相互交流を進めています。現在は青少年訪問団の相互交流を行っていますが、今後は相互の青少年交流を継続しつつ、一般町民にも交流の機会を提供し、文化、教育、農業等による交流を進めます。国際感覚豊かな人材の育成を図るため、多様な国際交流活動を促進します。

国内交流では、平成23年7月に滋賀県湖南市と友好交流協定、並びに8月には災害時相互応援協定を締結しました。また、東京都港区とも歴史、文化等のつながりによる交流を進めています。現在は催事への参加、青少年交流、商工会交流、農産物のPR等を行っているところです。今後は交流人口の増加を促進し、関係市町の発展に資するべく町民、民間団体等、幅広い分野における国内交流を推進します。

また、民泊事業を推進しており、交流・関係人口の増加、北栄町ファン等の増加を目的に、北栄町農家民泊推進協議会を中心に関西圏の中学校が実施している体験型教育旅行の受け入れを行っています。しかし、協力していただける受入家庭が少なく、北栄町単独での受け入れが困難で、他団体と協力して受け入れを行っている状況です。今後は、農家民泊の活動意義・目的等を幅広く周知し、協力していただける受入家庭を増やす必要があります。

町内には宿泊施設が少ないため、民泊事業を行っている事業者や新規事業者への支援を行い、町内に滞在していただける時間をできるだけ確保し、北栄町をより深く知っていただく機会を増やしていきます。



農家民泊



台湾台中市青少年交流であやとり

【施策の内容】

(1) 国際交流の推進

- ・台湾台中市大肚区との相互青少年交流を継続して推進します。
- ・一般町民が参加できる交流を推進します。

(2) 国内交流の推進

- ・滋賀県湖南市等との交互の文化、教育、農業等での交流を推進します。
- ・お互いの持つ魅力（自然環境、歴史、文化等）を活かし、可能な限りあらゆる分野での交流を推進します。
- ・湖南市のみならず他市町との国内交流を促進し、交流人口の増大を進めます。
- ・民間における幅広い分野での交流を支援・推進します。

（3）民泊事業の推進

- ・教育旅行受入家庭の確保のため、北栄町農家民泊推進協議会と協力して幅広く募集を行います。
- ・民泊事業に関する情報発信、各種支援等を行います。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
台湾台中市大肚区との交流	相互青少年交流 派遣・受入 各1回/年	相互青少年交流 派遣・受入れ 各1回/年 町民参加の交流1回/年	4.7 
滋賀県湖南市との交流	相互交流 派遣・受入れ 各2回/年	相互交流 派遣・受入れ 各2回/年 民間主体の交流1回/年	4.7 
教育旅行受入れ家庭の増加	10 家庭	15 家庭	11. a 
民泊事業者の増加	1 事業者	3 事業者	11. a 

【みんなで取り組むこと】

- ・異なる地域の歴史や文化を理解するように心がけましょう。
- ・国際交流や多文化理解などのイベントへの参加やボランティア活動を通じて、国際化への理解を深めましょう。
- ・自分の地域の歴史、文化、魅力を説明できるように努めましょう。

第3項 移住定住の促進

1. 北栄暮らしの支援

【現状と課題・施策の基本的方向】

現在、移住者に対する支援や、相談会等へ参加して北栄町のPRを行っています。

今後も引き続き関係機関や中部地区の他市町とも連携し、雇用や住まい、教育・子育て、福祉等のコンテンツ⁵¹を活用し、様々なツールで情報発信を行います。

「北栄町に住んでみたい」、「北栄町に住んで良かった」と思ってもらえる支援を行い移住・定住を推進します。

【施策の内容】

(1) 移住希望者への情報提供

- ・都市圏での相談会等に参加し、県外者へ効果的に情報提供を行います。

(2) 移住希望者の創出

- ・様々なコンテンツを活用して、幅広く町のPRを行います。
- ・町ホームページ等を活用し、定住に向けての情報発信を行います。

(3) 移住・定住支援

- ・移住・定住を促進するため、空き家情報バンクや移住奨励金などの各種支援を行います。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
移住相談会へ参加	8回／年	10回／年	11. a 
移住者数	66人／年	75人／年	11. a 
定住者数	146人／年	175人／年	11. a 

⁵¹ コンテンツ：本来は内容、中身という意味の言葉。提供している作品や記事・画像・動画など、売りとなる情報全般のことを指す



北栄暮らし通信（ツイッター）



【みんなで取り組むこと】

- ・一人ひとりが北栄町の良さを、積極的にPRしましょう。
- ・自らの町の魅力をつくり、知り、発信しましょう。

▶ 第6節 健全な財政運営

人口減少・少子高齢化が予測される中、持続可能で健全な財政運営を行い、厳しい財政状況下においても将来にわたって住民サービスを維持し、その質を向上させていくよう努めます。このため行財政改革を推進するとともに、歳入確保に向けた取り組みを一層推進します。



第1項 健全な財政運営

1. 行財政改革の推進

【現状と課題・施策の基本的方向】

自治体の財政指標のひとつである実質公債費比率は、平成21年度をピークに減少しており、平成30年度には13.8%となるなど近年の財政運営は概ね順調に推移しています。一方、町の収入の4割程度を占める普通交付税について、合併による優遇措置がありますが、この措置が合併後10年を経過した平成28年度から段階的に縮小されており令和3年度には完全に廃止となります。北栄町の人口推計を加味すれば普通交付税は減少していくことが予想され、今後、厳しい財政状況が見込まれます。

持続可能で健全な財政運営のため、行財政改革及び事務事業の見直しを行い、民間にできることは民間に委ねるなど、コンパクトな自治体運営が必要となっています。

北栄町行政改革プランの確実な実行に加え、AI⁵²やRPA⁵³などの最新テクノロジーを導入し、業務の効率化を図り職員で行う業務の質の向上に努め、厳しい財政状況下でも住民サービスを維持・低下させず、住民サービスの向上と効率化の両立を図っていく必要があります。

【施策の内容】

(1) 行財政改革の推進

- ・行財政改革プラン及び公共施設等総合管理計画に基づき行財政改革を推進し、無駄のないスリムな行政を目指します。

(2) 事務事業の効率化

- ・効率的で質の高い行政サービスを提供するため、AIやRPAなどの最新テクノロジーを導入し、事務業務の効率化を図ります。

(3) 民間委託の推進

- ・スリムでコンパクトな自治体運営を目指し、民間で可能な事業については、積極的に民間委託を進めます。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
財政調整基金の残高	16億3,366万円	10億円	—
起債残高 ※町全体の借金残高	170億6,200万円	117億円	—

⁵² AI（エーアイ）：人工知能。人間が持っている、認識や推論などの能力をコンピューターでも可能にするための技術の総称

⁵³ RPA（アールピーイー）：これまで人間が行ってきた事務作業の一部を、ロボットを使って自動化する取り組み

【みんなで取り組むこと】

・町政運営や財政状況に関心を持ち、地域座談会、審議会・委員会、パブリックコメントなどを通じ意見を述べ、互いに考えましょう。

2. 歳入確保に向けた取り組み

【現状と課題・施策の基本的方向】

町税等の貴重な自主財源を確保するため、適正な課税と確実な徴収を図ります。また、ふるさと納税の取り組みを推進し、寄附金の確保に努めます。

【施策の内容】


(1) 徴収・滞納整理の強化

・県下でも上位の徴収率を維持するため、漏れのない課税と法令に基づいた着実な滞納処分により、「納税義務」の履行を進めます。

(2) ふるさと納税の取り組み

・返礼品の充実とふるさと納税のPRにより、自主財源の確保に努めます。

【施策の目標（KPI）、関連するSDGs】

項目	現状（R1実績）	目標（R12目標）	SDGs
町税等徴収率（現年度・滞納繰越）	99.2%	維持	10.4 

【みんなで取り組むこと】

・持続可能なまちづくりには、財政的な基盤が不可欠であることをご理解いただき、期限内納付に努めましょう。

第5章 資料編：町民の方々からいただいた意見や議論について

本章においては、「ほくえい未来トーク」において参加者の方から出された意見や、町民アンケートの結果分析について詳細を記載しています。

1. 北栄町の現状・課題について

(1) ほくえい未来トークにおける議論

ほくえい未来トークにおいて「北栄町の課題・将来不安なこと」を議論していただいた際の主な意見は次のとおりです。

分野	北栄町の課題・将来不安なこと
産業×雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・企業が少なく働く場所がない。 ・企業進出がない。大企業が来たとしても働く人材がいないのではないかと。
農林業	<ul style="list-style-type: none"> ・農家が高齢化している。農業者の確保が難しい。 ・耕作放棄地や遊休地が増加している。山地が荒廃している。田園風景が変化している。鳥獣被害が増加している。
観光×文化	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が楽しめる飲食店、宿泊先、遊べる場所が少ない。町内でお金が使われない。 ・町の他の魅力（文化財、自然環境など）につなげていない。 ・人任せにする意識がある。町民のコナンへの意識が薄い。
商業施設（買物、飲食店）	<ul style="list-style-type: none"> ・商店、飲食店、商業施設が少ない、あるいは遠い。閉店時間が早い。 ・店を出しても、働く世代の若者が少ない。店を開けてもお客が少ない。 ・どこに行くにも不便である。バス停までが遠い。買い物難民が出始めている。
子育て×教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ない。部活数等も不足している。指導者や保育士も不足している。 ・子どもの住んでいる地域と地域が遠い。子どもを外で遊ばせたいけど場所がない。 ・進学に対する意識が低い。勉強する環境の選択肢が分からない。保育料が高い。
コミュニティ×協働	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減により、自治会、地域行事の維持運営が難しくなる。 ・コミュニティを支える人が不足している。自治会役員、行事の参加者が固定化し、負担が増えている。 ・住民の交流場所、コミュニティの場がない。気楽に集える集合施設がない。
福祉×医療	<ul style="list-style-type: none"> ・病院数が減っている。病院や診療所へのアクセスが悪い、近くにない。「いざというとき」に病院に行くことができない。 ・高齢者が増加し、入所施設が不足している。介護人材も不足している。老々介護が生じている。
健康	<ul style="list-style-type: none"> ・車社会のため歩くことが少なく運動不足になる。ホームドクターとなる医師がいない。

分野	北栄町の課題・将来不安なこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・病院に健康診断に行く人が少ない。リハビリテーションの機会の場が少ない。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・車がないと暮らせない、生活が不便である。車に乗れない人への配慮が必要である。 ・公共交通機関など自家用車以外の選択肢が少ない。
暮らし×住まい	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が多く、虫食い状態で存在する。家や庭が荒れることによる被害がある。 ・新築の家を建てる土地がない。 ・傾斜が多く、冬の雪道が困る。川沿いや海岸にポイ捨てされたごみが多い。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・防災活動や災害対策が必要である（個人と自治会の対策を含む）。現状の対策でよいのか不安である。 ・外灯が少なく、夜になるとまちが暗い。子どもが一人で帰りたくない。 ・空き家が増加している。松くい虫等による防風林の被害がある。海岸が浸食されている。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・町の公表情報が知られていない。またそのために信用を得られない。
インフラ×財政	<ul style="list-style-type: none"> ・税込減、支出増（福祉・医療・教育・大型事業）。公共サービスの維持が難しくなる。 ・道路、橋、水路溝、ダム、公共施設などのインフラの維持や更新、老朽化対策が必要である。 ・道幅が狭い。草が茂っている。冬期の除雪が通勤時間に影響を及ぼしている。 ・鳥取や米子、山陰の中核都市から離れており過疎化が進行している。 ・インターネット回線が遅い。光回線が通っていない。
人口×若者×定住	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が進行している。人口が減るのはさみしい。人口減少を食い止めるべき。 ・若い人は減少し、高齢者は増加している。10代20代の流出により活力が低下している。 ・若い人の考えはまちづくりのための財産である。若者世代の関心が薄い。
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリン、光熱費が高い。

(2) 町民アンケート結果

設問：次の各分野について、これまでの北栄町の取り組みにどのくらい満足していますか。

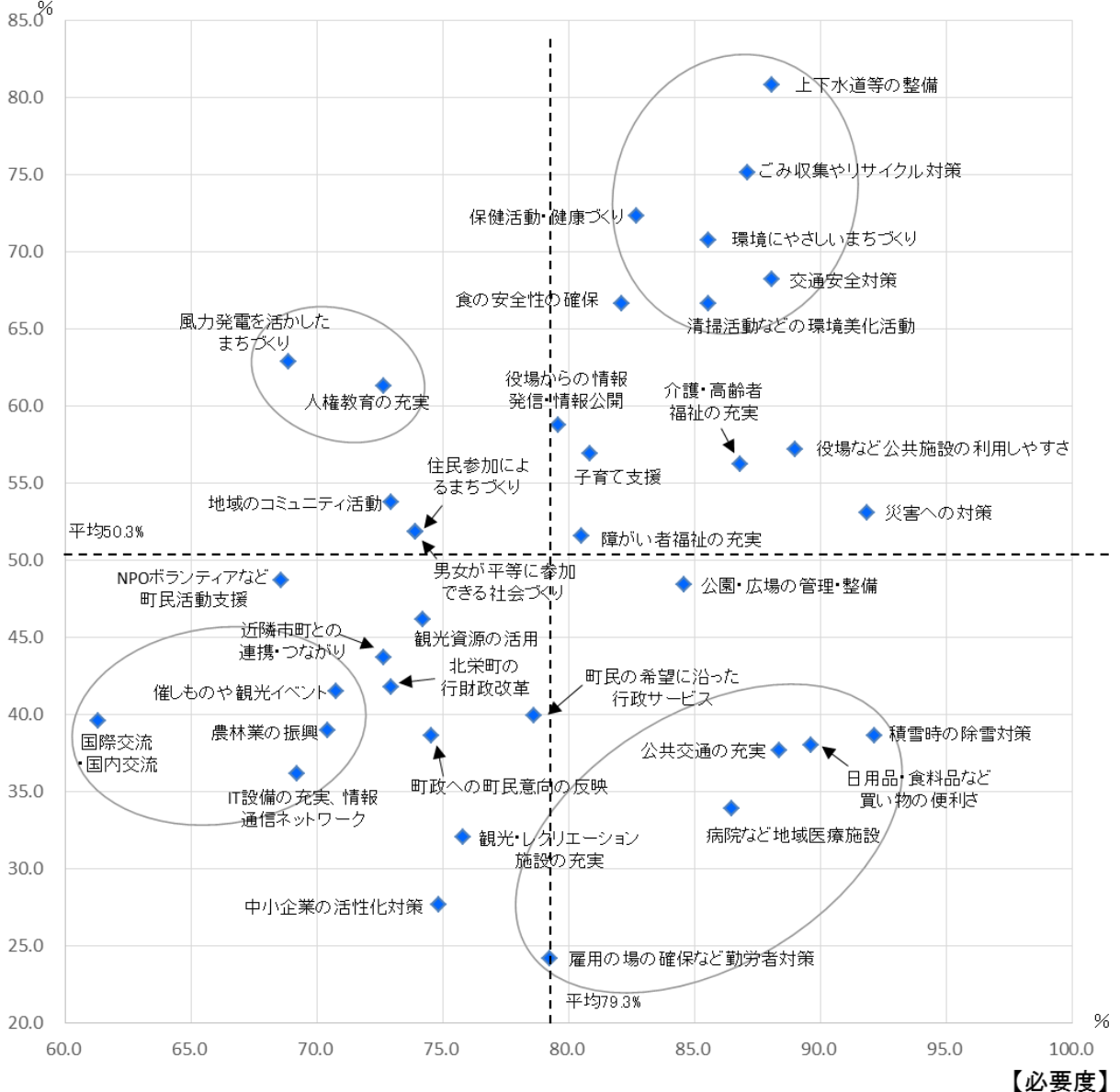
満足度・必要度がともに高い：「上下水道等の整備」「ごみ収集やリサイクル対策」など

満足度が低く必要度が高い：「雇用の場の確保など勤労者対策」「病院などの地域医療施設」「公共交通の充実」など

満足度は高いものの必要度が低い：「風力発電を活かしたまちづくり」「人権教育の充実」など

満足度・必要度がともに低い：「国際交流・国内交流」「IT設備の充実、情報通信ネットワーク」など

【満足度】



満足度-必要度散布図の見方

- ◆ 縦軸が満足度、横軸が必要度であり、それぞれ数値が高いほど満足度または必要度が高いことを表しています。
- ◆ 満足度：「充分満足」「まあ満足」と答えた人の割合
- ◆ 必要度：「非常に必要」「必要」と答えた人の割合

2. 北栄町の理想の将来のあり方について

(1) ほくえい未来トークにおける議論

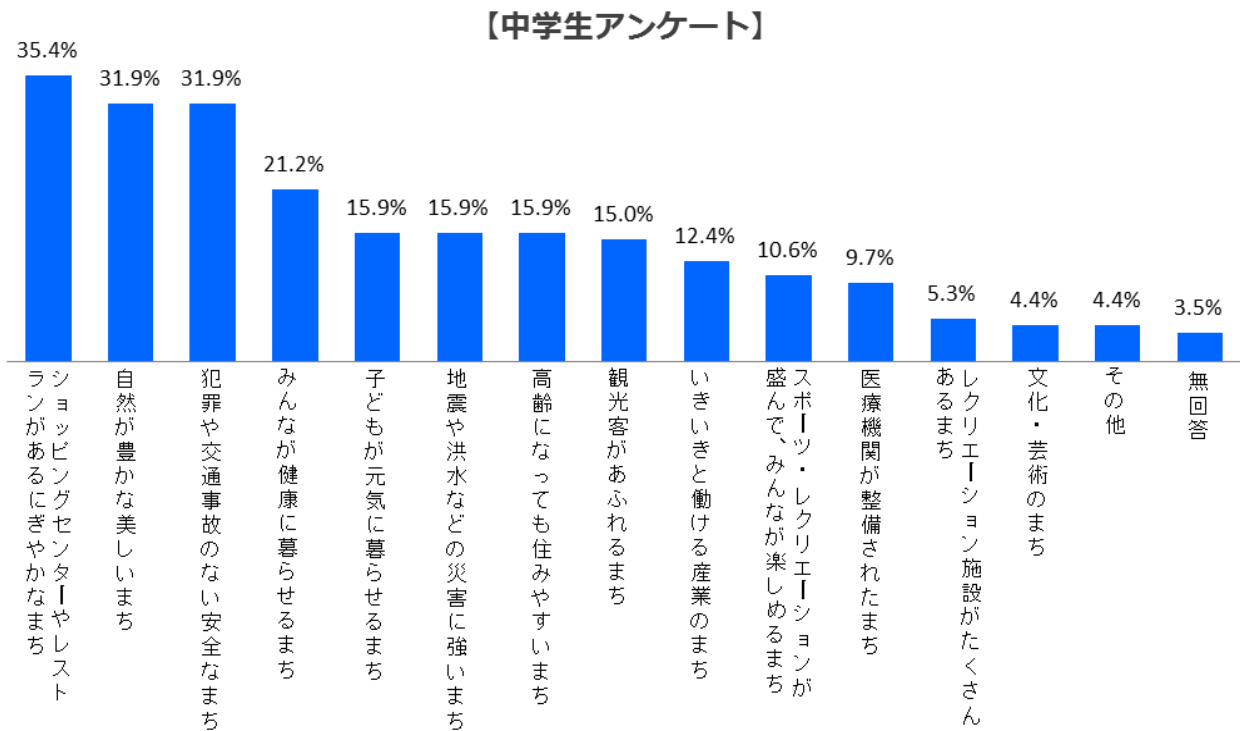
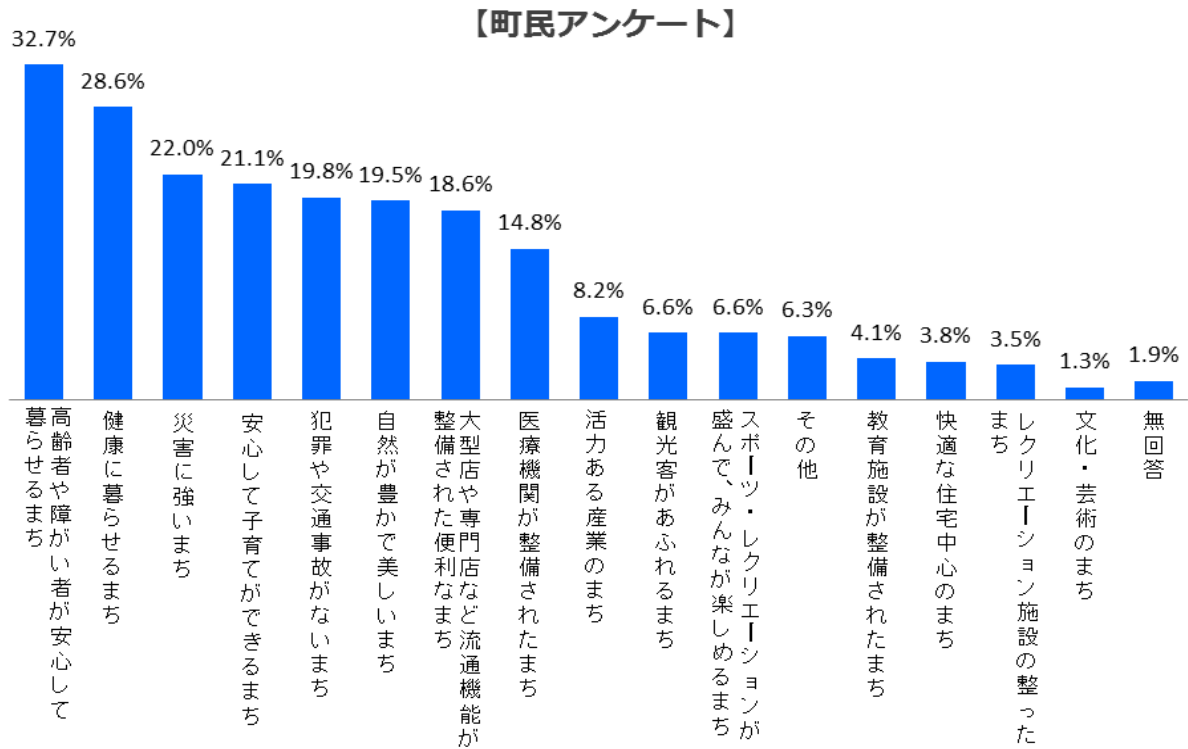
ほくえい未来トークの中で、「10年後に北栄町がどうなっていたらいいか」について話し合いをした結果、たくさんの意見がありました。主な意見については以下のとおりです。

グループ	理想 「10年後の理想の北栄町を考えよう」
産業×雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・北栄町にたくさん働く企業、場所がある。「働き口が無い」という人がいない。 ・主力産業がある。北栄町にしかない技術や人材がある。事業者がレベルアップしている。企業がたくさんあり町に活気がある。産業、観光などが整備、誘致されている。 ・商業、農業者の後継者に困らない。次世代への継承の不安が解消されている。
農林業	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物のブランド、特産品が継続されている。農業面積、優良農地を維持できている。 ・農業者数を維持でき、新規就農者が増加している。農業をしたい人達が多数いる。 ・農業が企業化されている。AIを農業に利用している。スマートアグリで活性化されている。農業の生産性が高い。
観光×文化	<ul style="list-style-type: none"> ・コナンのまちとして盛り上がっている。国内外の方々から愛され親しまれる町である。 ・飲食店、商業施設、レジャー施設等の増加し活性化している。既存の施設が充実している。 ・景観や環境が維持されている（または向上している）。住民同士のふれあいの機会が増加している。ふれあいの場所が整備されている。 ・コナンとその他の魅力との横のつながりができている。
商業施設	<ul style="list-style-type: none"> ・大型のショッピングモールや美味しい料理店がある。買いものが近くでできる。
子育て×教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに安心が持てる町、子育てがしやすい環境である。子どもがイキイキと健康的に過ごせる。遊び場がたくさんある。 ・子どもがたくさんいてにぎやかである。子ども人口を維持できている。 ・教育の選択肢が増える。文化、教育面で学べるものが充実している。体力や学力が高い。 ・教育費が安く、教育費に心配がいらぬ。保育料が安い。
コミュニティ×協働	<ul style="list-style-type: none"> ・住民でまちづくりをするまちである。たくさんのコミュニティがある。年間を通した人のつながりを確保できている。老若男女が共助できている。地域行事が続いている。 ・交流できる場所がある。外に運動ができる場所がたくさんある。 ・北栄に関わる人（交流人口）が増加している。
福祉×医療	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が楽しく安心し、活躍しながら暮らせる。高齢者が多くても希望の持てる町である。 ・障がい者と健常者が普通に交流している。社会的弱者にやさしい環境である。 ・自宅での診療が受けられやすい。常時介護が必要な人でも自宅で暮らせる。
健康、住まい	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢世代の現役で活躍している。健康寿命が伸びている。健康のための家づくりが発展している。

グループ	理想 「10年後の理想の北栄町を考えよう」
	<ul style="list-style-type: none"> ・健診率が向上している。「健診車」や「心の相談窓口」が集落単位で行われている。 ・運動に楽しみを持って参加できる仕組みがある。ギネスに登録（日本で一番歩く町）される。 ・歯の健康、睡眠、健康に役立つ料理などに関するイベントがあり、普及啓発ができています。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・車がなくても不便でなく生活を楽しめる。ループバス、徒歩、曜日ごとのバス運行、無人自動車などがある。交通の便が良くなる（新幹線や道路）。
暮らし×住まい	<ul style="list-style-type: none"> ・人がいきいきと輝いている町である。人がたくさん歩いていて町に活気がある。 ・自然、山がきれい。住みやすい。都会でなくても豊かに暮らせる。地産地消に取り組んでいる。国内外の人にも自慢できる。訪れる方もいいなあと思う。 ・いろいろな国の人が町に住んでいる。海外の人が沢山住める町である。 ・人権宣言の町として充実している。ごみが落ちていない。農道に草花がある。空き家が少ない。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・災害にも強い持続可能な町、防災がしっかり安定し安全な生活の不安がない町である。 ・防災研修や詳細な防災マップ（地震、水害、津波）がある。地域防災に楽しく取り組んでいる（行事）。地域のつながりを確保できている。高い建物など避難できる場所がある。 ・空き家や道路が整備されている。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマごと（健康、家、公的手助け、助成金等）に情報発信され、共有されている。 ・地域ごとでのグループを作成する。スマホを独自に活用する。
インフラ×財政	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に集える場所、天気問わず交流できる場所 図書館、公民館、体育館、軽食（集合店舗）、公園（アスレチック）などが充実している。 ・インフラ等の生活基盤やインターネットなどがきちんと整備されている。
人口×若者×定住	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが沢山いる。人口低下を食い止める。少子高齢化が改善されている（若者世代が増える）。 ・健康、福祉、子育てといったサービスがもっと充実している。 ・若者が活躍するまち。学生が終わり、その後、住みたいと思うまち。
エネルギー×環境	<ul style="list-style-type: none"> ・風力や太陽光のエネルギーで自給自足ができています。エネルギーの地産地消ができています。 ・変わらず自然豊かである。そのままの良さを活かしている。

(2) 住民アンケート結果とその分析

設問：あなたは将来どのような北栄町に住みたいと思いますか。



3. 将来のあり方を実現するための対策アイデア

ほくえい未来トークにおいて、「理想の将来像と現実のギャップを埋める対策」について議論した結果、たくさんアイデアがありました。主なアイデアは以下のとおりです。

グループ	対策アイデア 「理想と現実のギャップを見て対策を考えよう」
産業×雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・日本一の農業差別化商品を創出する。技術力を磨く。 ・魅力ある産業を創出する（産官学の連携を強化する）。 ・商工会支援、ローカル資本の企業援助を行う。 ・大きな企業より小企業をたくさん増やす。 ・北栄町民の雇用に対して企業に助成金を出す（設備投資とは別）。 ・若者に魅力ある職場を創設する。 ・働く環境を改善する。選択肢が広がるとよい。 ・働く大事なことのエビデンスを集める。 ・人材育成や技術開発を支援する。 ・たくみの技、技能伝承を優遇する。 ・大学農学部などで宣伝する。 ・大学での現場実習をする。 ・魅力的な企業、商店をつくる（個性化）。 ・求人情報のとりまとめを充実させる。 ・宿泊場所を建てて人を増やしたら、店の開店時間がのびる。 ・飲食店などを建てて人が来やすい場所にする。 ・チャレンジショップ通りをつくる。 ・みんなでシェアして働く場所をつくる。 ・将来を学ぶ場所や機会を設ける。
農林業	<ul style="list-style-type: none"> ・有機栽培で付加価値を高める。 ・無農薬栽培で土にも人にも優しい農業をする。 ・農業の企業化を積極的に進める。 ・農業振興地域を見直す（優良農地のみ残しあとは山林へ）。 ・有料ボランティアによる耕作放棄地や山を整備する。地域ごとにボランティアを募る。 ・食の安全と安心、地産地消を進める。 ・市場に出せない農産物を活用する。 ・給食に地元の食材をつかう。 ・人力に頼らない農業をする。 ・町産業振興課や農業委員会の取り組みを強化する。

グループ	対策アイデア 「理想と現実のギャップを見て対策を考えよう」
	<ul style="list-style-type: none"> ・地主とのコミュニケーションをとる。 ・残すべき農地を整理する。 ・有害獣対策を推進する。捕獲などのハードルを下げる。
観光×農業	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の観光化を推進する。地産地消型のワイナリーやレストランなどを設置する。 ・都会のレストラン経営者を誘致する。
観光×文化	<ul style="list-style-type: none"> ・コナン駅周辺に集える場所を設置する。 ・お台場からコナン駅までを充実させる（歩きながら楽しめる）。 ・鬼太郎ロードみたいにする。 ・内外部からの商店を出会いの広場へ誘致する。 ・出会いの広場に箱ものをつくる。 ・お台場市場を拡大し充実させる。 ・道路→歩道に屋根を設置する。 ・宿泊施設を（民泊）設置する。 ・〇〇特区をつくる。 ・中部地区一体で考える。 ・ここでしかないものでPRできるものを探す、つくる。 ・コナンゲーセン プリクラなどがあるといい。 ・複合施設を建設する（町民が集える場、美術館など）。 ・町民は割引または無料で、気軽に訪れる仕組みをつくる。 ・町民ガイドを育成する。町に詳しい人に頼む。 ・SNSなどで魅力の情報発信をする。 ・コナン通りに在来商店を移設してもらう。 ・コナン通りに風よけもかねて長屋形式の商工街をつくる。 ・文化財も含め、著名な人に魅力を伝えてもらう機会をつくる。 ・資金を集めるためにコナンや特産品を使った、商品、店を出す。 ・コナン駅とふるさと館の往復バス（タクシー）を100円程度にして集客する。 ・観光コースを作る→紹介する。 ・「コナン × 〇〇」を企画する。 ・イベントを増やす。北栄文化をみていただくパフォーマンスをする。 ・町民向けのトークショー（青山剛昌先生）をする。 ・宿泊やホテルについて町外と協力する。 ・宿泊施設について周辺の市町とつながりを強化する。
商業施設（買物、飲食店）	<ul style="list-style-type: none"> ・企業を誘致する。

グループ	対策アイデア 「理想と現実のギャップを見て対策を考えよう」
	<ul style="list-style-type: none"> ・外販者を導入する。 ・移動販売を行う（移動販売車など）。 ・地元の商品が買えるお店を増やす。 ・地元企業の参入、集まる集合場所に図書館等を併設する。 ・現在の施設をつなげる。
子育て×教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て、結婚に関するお金を補助する。 ・子どもの居場所、遊べる場所を増やす。 ・子育てがしやすくなるような条例をつくる。 ・公園などの外で遊べるところを増やす。 ・空き家改修を一般にも開放する。 ・公的な建物を勉強や避難所として利用する。 ・公共施設を開放する、遊休施設を活用する。 ・身近に良い大学とかがあればよい。 ・由良駅前（今ある施設）公民館・図書館・体育館をつなげた集合施設にする。 ・お台場に遊び道具を整備する（ボール、なわとび、バトミントンなど）。 ・J A（駅前）の用地を有効活用する。 ・遊ぶ場所、働く場所をつなげる。 ・寄附を集めて遊具を作る（公園）。 ・0歳から保育料を無料にする。 ・北栄町独自の奨学金制度をつくる（北栄町に帰ってきたら返還不要など）。 ・ネウボラで子育てに関する知識や遊びが教えてもらえる。 ・家庭教育12ヶ条を継続する。 ・虐待に対する講義を実施する（児相など）。 ・保育士の給料を上げる、待遇をアップする。 ・保育士の体験機会を提供する。 ・授業の前に軽い運動をする（学力アップ）。 ・保育園後の体育館（遊戯室）を活用する。 ・格安スクールをつくる。 ・特区にして英語教育を充実する。北栄町から東大生が沢山でる。 ・お母さんが子どもの教育のためなら住みたいと思える町にする。 ・プールを新しくしてほしい。 ・スポーツの指導者を町外から招く。 ・スマホの利用時間（22:00までとか）を小中で決定する。 ・学校での部活の取り組みについて教育委員会で議論する。

グループ	対策アイデア 「理想と現実のギャップを見て対策を考えよう」
コミュニティ ×協働	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の集まりや活動を大切にする。 ・自治会の活性化、消滅させないために合併する。 ・様々な対策や対応をトータルで包括的に考える。 ・個々の得意分野を共有する。 ・行政と民間企業でまちのあり方について話す場をつくる。 ・他県や外国の人に北栄町の良さをアピールする。ヒット商品をつくる
福祉×医療	<ul style="list-style-type: none"> ・医院を誘致する。 ・町出身の医者を見つけ、空医院の営業を支援する。 ・北栄町が地域医をつくる。 ・保健師を増やす（県に要望を通す）。 ・かかりつけ医を充実させる。 ・緊急時に即対応できるシステムをつくる（専門の人に医療・介護の相談ができる）。 ・生活習慣の改善を推進する（手作り料理を進める）。 ・高齢者の町づくりのモデルケースを作る。 ・「運動」と「健康」を考えるワークショップを鳥大と連携して開催する。 ・小児科を増やす。 ・簡単に身体を動かすことができるようラジオ体操等を年間通じて実施する。 ・精神科医ドクターの定期的な相談窓口を設ける。 ・早期発見の大切さを声を大に!!して伝える。 ・健診、各自治会内で受診できるようにする。 ・歯の健診の必要性をしっかりと住民に伝えていく。 ・歯のコンクール（町で毎年開催）家族単位で行う。 ・健康診断に行かせるように勧める（ポイント？ごほうび制度？）。 ・学校、地域などで運動のイベントを企画する。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・自動運転車を導入する。 ・運転安全装置装備車を推進する。 ・カーシェアリングをする。 ・集落と大型スーパーを直結するショッピングバスを走らせる。 ・移動スーパーでお客さんのところに店が行く。 ・町内の巡回バスを走らせる。 ・マイクロバス、乗りあいタクシーを実施する（地区ごとに回る）。
暮らし×住 まい	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策、虫食い状態の対策をする。 ・空き家をリフォームする。

グループ	対策アイデア 「理想と現実のギャップを見て対策を考えよう」
	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家のとりこわしに助成金を出す。 ・空き家対策として移住を進める。 ・空き家を民泊として活用する。 ・自治会公民館を有効活用する。 ・空き家（家）をお店やコミュニティスペースとして利活用する。 ・若者と高齢者が共有に話し合うスペースをつくる。 ・ふれあいの場のレジャー施設をつくる。 ・音楽系大学の演奏の場を提供する。 ・芸術家の活動の場をつくる（瀬戸内の芸術の街みたいな感じ）。 ・町経営の住宅地をつくる。 ・固定資産税を減免する。 ・住める場所を増やす。 ・土地活用で集団（1人2人世帯）を住ませる場所にする。 ・住まいの計画の集中化をする。 ・医学からのアプローチを試みる。 ・行政のシンポジウムを企画し、有識者を招致する。 ・素人でもできる脱健康被害住宅を進める。 ・毎月の町報と一緒に一週間の食事のメニューを作って配布する。 ・調理と料理講習会は、食推会員だけでなく他の方法も試みる。 ・町内に在住する外国人に自国料理を紹介してもらう。 ・一人暮らしをサポートするメンバーを育成する。 ・自治会加入についてアパートに入居する時、自治会加入を約束してもらう。 ・アパートに対しての情報を、近くの自治会にできるだけ知らせる。 ・老人クラブの他自治会との交流を進める。 ・自治会運営のやり方を考える。 ・自治会ではなく、もっと専門的に動けるようにする。 ・自治会のサポート隊を結成する。 ・自治会の役員を年代別に無作為に決める！ ・集落単位で30代～50代のプロジェクトチームを結成する。 ・ゴミ出し巡回をする（ゴミ収集の人が回収していく）。 ・公民館などでどのようなサービスがあるかを説明する。 ・サービスを知ってもらう冊子を提供する。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・暗いところ、通学路や県道から一本中に入った道等に街灯をつける、増やす。 ・登下校時間に合わせてウォーキングをする！！（防犯灯代わり）

グループ	対策アイデア 「理想と現実のギャップを見て対策を考えよう」
	<ul style="list-style-type: none"> ・観光の災害対策をする。 ・地域のつながりを深める（自治会にこだわらず町内外）。 ・防災訓練を継続する。 ・水害対策を具体的に考えられるような事例を知らせる（台風19号を参考）。 ・保険の規約を確認する（水害に対して）。 ・防災士を集落に5名くらい配置する（取得者を増やす）。 ・被災地の見学会を行う（自治会の人に）。 ・災害の時に避難の仕方、対応などを家ごとに説明する（家ごとに説明してまわる）。 ・誰もが参加できる防災行事する（若い人も参加できる）。 ・現在の施設を有効活用する（学校などを避難場所として整備する）。 ・地域の人を知る機会を増やす。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校などで使われている情報共有メールの地域版をつくる。 ・行政主体の勉強会を実施（何度も）する。 ・町の情報をどんどん提供し、若者の就労を拡大する。 ・双方向の防災無線を設置する。ライン等SNSを活用する。 ・情報を整理（情報の氾濫）する。 ・信頼できる所からの情報発信（SNSは真実が分からない）に取り組む。
インフラ× 財政	<ul style="list-style-type: none"> ・財政（歳出）の一定額一定割合は修繕補修にあてる。 ・負の財産を残さない。撤去までの予算を計画する。 ・町をコンパクトにする。 ・ダムの補修をする。 ・税収に見合う事業を整理する。集中と選択の10年間にする。 ・公的施設を縮小や改修をすすめる。必要な施設を検討する。 ・コンクリートブロック塀の改修補助があることを周知する。＋道幅を確保することの有効性
人口×若者 ×定住	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊ぶ場所を増やす（公園）。 ・働けるお母さんの支援の場所を増やす。 ・小中学校の教育内容を充実させる（英語教育等）。 ・保育料を2人目は無償にする。出産お祝い金を出す。 ・北栄町ならではの教育（北栄町でしかできないこと）に取り組む。 ・（法律の改正特区などを含め）住宅地を確保する。 ・自治体が県外からの移住体験ツアーを企画する。 ・地域交流できるイベントを開催する。

グループ	<p style="text-align: center;">対策アイデア</p> <p style="text-align: center;">「理想と現実のギャップを見て対策を考えよう」</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が地元に戻ってくるための施策をする。 ・夏休みを利用し農業体験をする。 ・国や県へ要望する。町独自の施策を実施する。 ・北栄町の情報発信をし、魅力をもっと知ってもらおう。 ・設備を整えれば暮らしやすい町として宣伝できる。 ・Iターン、Uターンを推進する。
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー対策として風車を活用する。 ・太陽光を使用した街灯を設置する。 ・太陽光発電（公民館）に設置し、集落内のLED化を進める。



第2次北栄町まちづくりビジョン

策定 令和2年9月発行 北栄町

編集 北栄町企画財政課

〒689-2292

鳥取県東伯郡北栄町由良宿423番地1

TEL (0858)37-5864 FAX(0858)37-5339

E-mail kikaku@e-hokuei.net

HP <http://www.e-hokuei.net/>